

# 「1 あいさつ」 Step1

1 題材：簡単なあいさつをしよう

2 わらい

○基本的なあいさつの仕方に慣れ親しむ。  
Hello. Good morning. etc.

3 資料と準備

○掲示用絵カード（朝の絵、昼の絵、夜の絵、別れの絵）

4 展開



ポイント：あいさつはパターン化することも大切ですが、指導者のあいさつに自然に反応させたり、児童同士でもあいさつを交わせたりすることが大切です。

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 簡単なあいさつに親しもう	○基本的なあいさつの仕方を練習する。 Hello. Good morning. Good afternoon. Good evening. Goodbye. See you.	○絵カードを提示し、英語でのあいさつの仕方を繰り返し発音し、教える。	○英語と初めて出会う場面なので、にこやかにゆっくり語りかける。 ○チャンツで練習させるのもよい。
3 友達とあいさつを交わそう	○友達同士で相手を代えながら、絵に合わせてあいさつをする。 (例えば、教師が「朝の絵」を提示した時には、Good morning.とあいさつをする。)	○絵カードを提示し、手本を示しながら、説明をする。 ・朝の絵 →Good morning. ・昼の絵 →Good afternoon. ・夜の絵 →Good evening. ・別れの絵 →Goodbye. (See You.)	○相手の目を見て、にこやかにあいさつを交わすようにする。 ○一緒にあいさつを楽しんだり、恥ずかしそうにしている児童に声を掛けたりする。
4 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照

## 「1 あいさつ」 Step2

1 題材：身近な人とあいさつをしよう

2 わらい

○基本的なあいさつの仕方に慣れ親しむ。  
How are you? I'm fine.

3 資料と準備

(1) ゲーム用絵カード (2) CDプレーヤー  
(3) Try This Now (音楽CD3)

### コラム

何度でも聞き直しましょう  
相手の発音が聞き取れない時、  
曖昧にするのは誤解を生みます。  
聞き返すのは恥ずかしいことでは  
なくコミュニケーションのルール  
です。

4 展開

ポイント：あいさつのパターンは多彩です。気楽に、楽しみながらコミュニケーションの輪を広げましょう。

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 簡単なあいさつに親しもう	○基本的なあいさつの仕方を練習する。 A: Hello. B: Hello. A: How are you? B: I'm fine, thank you. And you? A: Fine, thank you.	○英語でのあいさつの仕方を繰り返し発音し、教える。	○にこやかに、ゆっくり語りかけるようにする。 ○指人形を持って親しみを込め、あいさつの仕方を理解させるのもよい。
3 歌を歌おう	○「Hi, how are you?」を歌う。 (音楽CD3)	○いろいろな歌い方で歌わせる。 ①動作をつける。 ②教師と児童が向き合う。 ③2つのグループに分かれて向き合う。	○CDを聞かせ、聞き取った言葉を声に出すようにうながし、徐々に一緒に歌うようにする。
4 ゲームをしよう	○「カード集めゲーム」を行う。 (GL p. 71参照)	○手本を示しながら、ゲームの説明をする。 ○集めたカードを発表させる。	○相手の目を見て、にこやかにあいさつを交わすようにする。 ○ゲーム中は、一緒にあいさつを楽しんだり、恥ずかしそうにしている児童に声を掛けたりする。
5 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照

# 「1 あいさつ」 Step3

1 題材：初対面の人へのあいさつをしよう

## 2 わらい

○初対面の人へのあいさつの英会話表現に慣れ親しむ。

Nice to meet you. How do you do?

## 3 資料と準備

- (1) 名刺（児童それぞれ5枚程度）
- (2) 練習用会話文（黒板掲示用）

Q. 「いってきます」を英語では？

A. 英語にはこれにあたる定型のあいさつはありません。でも無言で出かけることはないので、別れのあいさつと考えて、Bye-bye, Mom.のように言います。では、「おかえりなさい」はどうでしょうか？

（答えは次ページ）

## 4 展開

ポイント：日本人が自分の姓名を英語で言ったり、書いたりする時は、日本語通り「姓＋名」の順にする方法と英語文化圏での順序に合わせて「名＋姓」とする方法の2通りがあります。「姓＋名」の時、姓を全て大文字で表記することがあります。（山田太郎：YAMADA Taro）

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 初対面の人へのあいさつを言ってみよう	○初対面の人へのあいさつの会話文を教師の後に続けて言う。 A: Hello. B: Hello. A: My name is ○○. B: My name is ○○. A: Nice to meet you. B: Nice to meet you, too.	○初対面の人へのあいさつの仕方を紹介する。	○役割分担がはっきりするように話し方を工夫する。 ○2人で会話練習を行うときは、相手の目を見て行うようにさせる。
3 ゲームをしよう	○教師や友達と役割分担を決めて練習する。 ○「あいさつ伝言ゲーム」を行う。 （GL p. 71参照） ○「名刺ゲットゲーム」を行う。 （GL p. 71参照）	○ルールを説明して、楽しくゲームをさせる。	○デモンストレーションを示すことで内容を把握させる。 ○ゲームの中で繰り返し発話させることで定着を図る。
4 発表しよう	○学習した会話文を発表する。	○教師と児童で役割分担をして、会話文を発表させる。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
5 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照



# 「1 あいさつ」 Try This Now

## 1 題材：出迎え

## 2 わらい

- (1) 基本的なあいさつの仕方に慣れ親しむ。
- (2) 感情を表す言葉を学習して、自分の気持ちを伝えることができるようにする。



## 3 資料と準備

- (1) Try This Now (スキット編 I 1)      (2) ビデオデッキ
- (3) 「feelings」のカード

## 4 展開

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 基本的なあいさつの仕方に慣れ親しもう。	○ビデオを視聴する。(スキット編 I 1)  ○ビデオや教師の英語に合わせて発音する。 A: Hi, OO. Nice to meet you. B: Hi, OO. Nice to meet you, too. ○教師の英語を聞き、身近なあいさつの仕方を練習する。 A: How are you? B: I'm fine. And you? A: I'm good.	○ビデオを視聴させる。  ○全体練習の後、児童同士で何度も繰り返し会話練習を行えるようにする。  ○よく使われる会話文を紹介する。	○スキットを視聴した後再度、会話表現について練習するとよい。  ○教師も一緒に会話を行うようにする。  ○学級や児童の実態に合わせて使用する。
3 自分の気持ちを表してみよう	○教師の後に続けて発音する。「感情を表す言葉」happy, sad, thirsty, tired, hungry, angry, sleepy, cold, hot etc.	○自分の感情を表現する単語を feelings カードを見せながら発音する。	○チャンツで繰り返し発音させる。
4 ゲームをしよう	○「1・2・3ジェスチャーゲーム」を行う。(GL p. 71参照)	○ルールを説明して、楽しくゲームをさせる。	○デモンストレーションを示すことで内容を把握させる。
5 発表しよう	○「感情を表す言葉」の中から自分で選り、会話文を完成させる。	○自分で選んだ単語を使って、会話文を完成させることを伝える。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
6 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照

答え：これも定型のあいさつはありませんが、子どもが学校から帰ったなら、How was school? (どんな調子だった?) が「おかえり」にあたります。

## 「2 紹介」 Step1

1 題材：自己紹介をしよう

2 わらい

○簡単な自己紹介の仕方を知る。

My name is ～. What's your name?

3 資料と準備

(1) ゲーム用ネームカード（各自で数枚作る） 例) 1ねん2くみ やまだたろう

(2) CDプレイヤー

(3) Try This Now (音楽CD4)



4 展開

ポイント：紹介をする時は、相手の目を見たり、握手したりするようなジェスチャーを交えたりすることが大切です。恥ずかしがらず自然な雰囲気で行わせましょう。

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 簡単な自己紹介をしよう	○基本的な自己紹介の仕方を練習する。 A: Hello! B: Hello! A: My name is ~ What's your name? B: My name is~.	○英語での自己紹介の仕方を繰り返し発音し、教える。	○指人形など教具を使い、親しみを込め、あいさつの仕方に触れさせる。
3 歌を歌おう	○「The Hello Song」を歌う。 (音楽CD4)	○CDに合わせて歌わせる。	○単語を確認しながら、少しずつ慣れさせていく。
4 ゲームをしよう	○「自己紹介ゲーム」を行う。 (GL p. 72参照)	○手本を示しながら、ゲームの説明をする。	○相手の目を見て、にこやかにあいさつを交わすようにする。 ○ゲーム中は、児童の様子を観察し、恥ずかしそうにしている児童がいれば声を掛け、励ましてやる。
5 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照

## 「2 紹介」 Step2

1 題材：身近な人を言ってみよう

### 2 わらい

○家族の言い表し方を知る。  
mother, father, sister, brother, grandfather,  
grandmother, family



### 3 資料と準備

- (1) 身近な人（父、母、兄、姉など）を表す絵カード（掲示用）  
 (2) 身近な人を表す絵カード（ゲーム用） (3) CDプレーヤー (4) ビデオデッキ  
 (5) Try This Now（音楽CD 1 1） (6) Try This Now（リズム練習編 1 5）

### 4 展開

ポイント：uncle（おじ）、aunt（おば）、cousin（いとこ）まで語彙を広げるため、家系図（family tree といいます）を使ってみてはどうでしょうか。

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE（p. 87）参照
2 家族を言ってみよう	○発音練習をする。 mother, father, sister, brother, grandfather, grandmother, family (リズム練習編 1 5)	○家族の絵カードを用いて、繰り返し発音させ、教える。	○児童に身近なキャラクターを絵カードに使うと楽しく学習できる。
3 歌を歌おう	○「The Family Song」を歌う。 (音楽CD 1 1)	○CDに合わせて歌わせる。	○単語を確認しながら、少しずつ慣れさせていく。
4 ゲームをしよう	○「フルーツバスケットゲーム」を行う。 (GL p. 72参照)	○児童と一緒に活動する。	○家族やペットの顔を描いたカードを児童分準備し、使用する。
5 あいさつをしよう			○CE（p. 87）参照





## 「2 紹介」 Step3

1 題材：身近な人を紹介しよう

### 2 わらい

- 身近な人を紹介するときの英会話表現に慣れ親しむ。  
This is my ~.

### 3 資料と準備

- (1) 練習用会話文（黒板掲示用）(2) 身近な人（父、母など）を表す絵カード（掲示用）
- (3) 身近な人を表す絵カード（ゲーム用）

### 4 展開

ポイント：コミュニケーションのコツは積極的に話しかけること。話すほどにコミュニケーションは深まります。

Q. 「聞く」を英語では？

A. 意識的に聞くのは listen、音として耳にはいるのが hear です。「聞き入れる」は obey があり、使い分けが必要です。

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 身近な人を言ってみよう	○身近な人の絵を見て、教師の後に続けて言う。 「身近な人に関する言葉」 mother, father, sister, brother, grandmother, grandfather, baby etc.	○身近な人を表す単語を絵カードを見せながら発音する。	○チャンツで繰り返し発音させる。
3 身近な人を紹介しよう	○身近な人を紹介する会話文を教師の後に続けて言う。 This is my sister, Yuko. This is my brother, Shin. ○教師や友達と役割分担を決めて練習する。	○身近な人を紹介する仕方を発音する。	○ペアで会話練習を行うときは、相手の目を見て行わせる。
4 ゲームをしよう	○「家族集めゲーム」を行う。 (GL p. 72参照) This is my ○○, △△. This is my ○○, △△.	○ルールを説明して、楽しくゲームをさせる。	○デモンストレーションを示すことで内容を把握させる。
5 発表しよう	○学習した会話文を発表する。	○自分で選んだ単語を使って、会話文を完成させることを伝える。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
6 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照

## 「2 紹介」 Try This Now

### 1 題材：家族紹介

### 2 わらい

- (1) 基本的な家族の紹介の仕方に慣れ親しむ。
- (2) 家族構成を表す言葉を学習して、紹介の幅を広げることができるようにする。

### 3 資料と準備

- (1) Try This Now (スキット編 I 2)
- (2) ビデオデッキ
- (3) 家族(父、母、兄、姉など)を表す絵カード(掲示用)

### コラム

家族は単数？複数？

家族を一つの単位と見なせば単数、家族の一人ひとりに重点を置けば複数扱いです。

◆ How is your family? (ご家族はお元気ですか。)

◆ My family are all baseball fans. (うちの家族はみんな野球ファンです。)

### 4 展開

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 紹介の仕方に慣れよう	○ビデオ視聴する。(スキット編 I 2)  ○ビデオや教師の英語に合わせて発音する。 This is my sister, Yuko. This is my brother, Shin.	○ビデオを視聴させる。  ○ビデオに合わせて、発音の仕方を練習させる。全体練習の後、3人組を作り、役割分担をして紹介の練習をさせてもよい。	○スキットを視聴した後再度、会話表現の練習をする。  ○教師も一緒に活動に入る。
3 家族を言ってみよう	○教師の後に続けて発音する。 「家族に関する言葉」 mother, father, sister, brother, grandmother, grandfather etc.	○家族構成を表す単語を絵カードを見せながら発音する。	○チャンツで繰り返し発音させる。
4 ゲームをしよう	○「成長ジャンケンゲーム」を行う。(GL p. 72参照)	○ルールを説明して、楽しくゲームをさせる。	○デモンストレーションを示すことで内容を把握させる。 ○ゲームを行いながら、単語の発音や意味を自然と理解させていく。
5 家族を紹介しよう	○「家族を表す言葉」の中から自分で選択して会話文を完成させる。 This is my ○○, (名前).	○自分で選んだ単語を使って、会話文を完成させることを伝える。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
6 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照



### 「3 身近なもの」Step1

1 題材：身につけるものを言ってみよう

#### 2 わらい

○身につけるものの英語での言い表し方に親しむ。  
hat, watch, glasses, socks, shoes, shirt,  
gloves etc.

#### 3 資料と準備

- (1) 身近なものを描いた絵カード（大・掲示用）
- (2) 身近なものを描いた絵カード（小・カルタ用）
- (3) ピンゴシート（9マス）×児童数

#### 4 展開

**コラム**

ファッション英語  
ワイシャツは shirt、ジーパンは jeans、ファスナーは zipper といいます。日本語との違いに気をつけてください。また、スタイルは figure といいます。

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 身につけるものを言ってみよう	○身につけるものの絵を見て、教師の後に続けて言う。 hat, watch, socks, glasses, shoes gloves etc.	○絵を見せながら発音し、身につけるものの言い表し方の練習をさせる。	○チャンツで繰り返し発音させる。
3 ゲームをしよう	○「カルタゲーム」を行う。 (GL p. 73参照) ○「ピンゴゲーム」を行う。 (GL p. 73参照)	○ルールを説明して、楽しくゲームをさせる。 ○4～5人のグループを決めておき、1回ごとに、Hands on your head と指示をして行う。 ○ルールを説明して、楽しくゲームをさせる。 1回ごとに、What is this? と言いながら絵カードを見せる。	○デモンストレーションを示すことで内容を把握させる。 ○2回以上行う場合は、1回目でグループ1位になった児童同士で別グループを作ると、多くの児童がカルタを取ることができる。 ○教師が見せる絵カードを見て単語が発音できるようにしておく。 ○児童の実態に応じて、It's ~ という表現を使うのもよい。
4 身につけるものを確認しよう	○身につけるものを英語で言う。	○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
5 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照



### 「3 身近なもの」Step2

1 題材：教室の中にあるものを言ってみよう

#### 2 わらい

○教室にあるものの英語での言い表し方に親しむ。  
classroom, blackboard, clock, desk, chair, window,  
door, compass, map, chalk etc.



#### 3 資料と準備

- (1) 教室にあるものを描いた絵カード（掲示用）
- (2) 教室にあるものを描いた絵カード（メモリーゲーム用）
- (3) ライオンの絵カード（ライオンゲーム用）

#### 4 展開

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 教室にあるものを言ってみよう	○教室にあるものの絵を見て、担任の後に続けて言う。 classroom, clock, blackboard, desk etc.	○絵を見せながら発音し、教室の中にあるものの言い表し方に親しませる。	○チャンツで繰り返し発音させる。
3 ゲームをしよう	○「メモリーゲーム」を行う。 (GL p. 73参照)  ○「ライオンゲーム」を行う。 (GL p. 73参照)	○ルールを説明して、楽しくゲームをさせる。 4、5人ずつのグループを決めておく。  ○教師がグループに What is this ? と順番に質問し、そのグループの児童は一緒にIt's ~と答えさせる。	○デモンストレーションを示すことで内容を把握させる。 ○より多くの児童がカードを取ることができたり、発話できたりするよう、2回目以降はグループ上位児童でグループを編成するように工夫する。 ○慣れてきたら、教師ではなく次のグループの児童にWhat is this ? と質問させる。
4 教室にあるものを確認しよう	○教室の中にあるものを英語で言う。	○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
5 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照

### 「3 身近なもの」 Step3

1 題材：家庭にあるものを言ってみよう

#### 2 わらい

○家庭にあるものの英語での言い表し方に慣れ親しむ。  
television, table, telephone, sofa, bed, mirror  
etc.

#### 3 資料と準備

- (1) 家庭用品の絵カード（大）
- (2) 家庭用品の絵カード（小・ゲーム用）  
（種類×児童数の半分）

Q. 通じていると置いていたら通じていない事務用品は？

A. 有名なのは、ボールペンの ball-point-pen、ホッチキスの stapler です。では、シャープペンシルを英語で言ったら？  
（答えは次ページ）

#### 4 展開

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 家庭にあるものを英語で言ってみよう	○家庭にあるものの絵を見て、担任の後に続けて言う。 television, table, telephone, sofa, bed, mirror etc.	○家庭にあるものを表す単語を絵カードを見せながら発音する。	○チャンツで繰り返し発音させる。
3 ゲームをしよう	○「ミッシングゲーム」を行う。 （GL p. 73参照） ○「カード並べゲーム」を行う。 （GL p. 73参照）	○ルールを説明して、楽しくゲームをさせる。	○デモンストレーションを示すことで内容を把握させる。 ○ゲームを行いながら、単語の発音や意味を自然と理解させていく。 ○カードの枚数を3枚、4枚、5枚と増やしていく。
4 家庭にあるものを確認しよう	○学習した単語をもう一度確認していく。	○絵カードに書かれてあるものを発表させる。	○全体で確認した後、個別に指名して、発表させるようにする。 ○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
5 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照

### 「3 身近なもの」 Try This Now

1 題材：チャンポンの中身

#### 2 わらい

- (1) ものの尋ね方に慣れ親しむ。  
pen, pencil, brush, paint, scissors, ruler, pencil case etc.
- (2) 身の回りにある身近なものを表す言葉を学習して、会話文に生かすことができるようにする。  
What's this (in English)?

Q. 英語の回文は？

A. 日本語の「たけやぶやけた」と同じ回文が英語にもいくつかあります。例を二つ、  
Was it a cat I saw?  
(私が見たのは猫だったんですか)  
Madam, I'm Adam.  
(奥様、私が入りです)

#### 3 資料と準備

- (1) Try This Now (スキット編 I 3) (2) ビデオデッキ  
(3) 「文具」の絵カード (4) ゲームで使うカード

#### 4 展開

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 ものの尋ね方に慣れ親しもう	○ビデオを視聴する。(スキット編 I 3)  ○ビデオや担任の英語に合わせて発音する。 A: What's this (in English)? B: Shrimp.	○ビデオを視聴させる。  ○ビデオに合わせて、発音の仕方を練習させる。全体練習の後、2人組を作り、役割分担をして会話練習をさせる。	○スキットを視聴した後再度、会話表現について練習させる。  ○教師も一緒に会話を行う。
3 文具を英語で言ってみよう	○教師の後に続けて発音する。 pen, pencil, brush, paint, scissors, ruler, pencil case, eraser, glue, crayonなど	○文具を表す単語をカードを見せながら発音する。	○チャンツで繰り返し発音させる。
4 ゲームをしよう	○「メモリーゲーム」を行う。(GL p. 73参照)	○ルールを説明して、楽しくゲームをさせる。	○デモンストレーションを示すことで内容を把握させる。 ○ゲームを行いながら、単語の発音や意味を自然と理解させていく。
5 発表しよう	○「文具」の中から自分で選択して会話文を完成させる。 A: What's this in English? B: Pencil. (It's a pencil.)	○自分で選んだ単語を使って、会話文を完成させることを伝える。	○学級や児童の実態に応じて答え方のレベルを調整する。 ○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
6 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照

答え：mechanical pencil です。外来語としてなじんでいる英語の中には、商標登録された商品名がそのまま普通名詞化されたものが意外と多いものです。ちなみに、ゼムクリップは paper clip といいます。

## 「4 好きなもの」Step1

1 題材：果物を言ってみよう

2 わらい

○いろいろな果物の英語での言い表し方に親しむ。  
apple, banana, lemon, grapes, orange, pineapple,  
peach etc.



3 資料と準備

(1) 果物の絵カード (大・掲示用) (2) 果物の絵カード (小・メモリーゲーム用)

4 展開

ポイント：レモンのイメージは日本では「すっきりさわやか」ですが、アメリカでは「酸っぱい」の印象が強くイメージはよくありません。こんな感覚の違いを見つけてみてはいかがでしょうか。

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 いろいろな果物を言ってみよう	○いろいろな果物の絵を見て、教師の後に続けて言う。 apple, banana, lemon, grapes, orange etc.	○絵カードを見せながら発音し、いろいろな果物の言い表し方に親しませる。	○チャンツで繰り返し、発音させる。
3 ゲームをしよう	○「フルーツバスケットゲーム」を行う。 (GL p. 74参照)  ○「メモリーゲーム」を行う。 (GL p. 74参照)	○ルールを説明し、楽しくゲームをさせる。1回ごとに、 What fruit do you like? と尋ねる。 児童には、I like～.の言い方を説明しておく。  ○ルールを説明して、楽しくゲームをさせる。4、5人ずつのグループを決めておく。	○デモンストレーションを示すことで内容を把握させる。 ○Apples.のように複数形で答える際は、児童の状況に応じて、指導する。 ○デモンストレーションを示すことで内容を把握させる。 ○より多くの児童がカードを取ることができたり、発話できたりするよう、2回目以降はグループ上位児童でグループを編成するように工夫する。
4 いろいろな果物を確認しよう	○いろいろな果物の絵カードを見て、教師の後に続けて言う。	○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
5 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照

## 「4 好きなもの」Step2

1 題材：野菜を言ってみよう

### 2 わらい

○いろいろな野菜の英語での言い表し方に親しむ。  
potato, cabbage, carrot, onion, pumpkin, tomato, cucumber etc.

### 3 資料と準備

- (1) 野菜の絵カード（掲示用）
- (2) 野菜の絵カード（ドンジャンゲーム用5枚×4セット）



### 4 展開

ポイント：児童が日頃聞き慣れたアップル、バナナ、トマトやキャベツといった果物や野菜の発音と英語の発音の違いには注意が必要で、繰り返しているうちに英語らしい発音が出てきます。

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 いろいろな野菜を言ってみよう	○いろいろな野菜の絵を見て、教師の後に続けて言う。 potato, cabbage, carrot, onionなど	○絵カードを見せながら発音し、いろいろな果物の言い表し方に親しませる。	○チャンツで繰り返し発音させる。
3 ゲームをしよう	○「フルーツバスケットゲーム」を行う。 (GL p. 74参照)  ○「出会ってジャンケンゲーム」を行う。 (GL p. 74参照)	○ルールを説明して、楽しくゲームをさせる。1回ごとに、 What vegetable do you like? と尋ねる。児童には、I like ~. の言い方を説明しておく。  ○クラスを4グループに分け、楽しくゲームに取り組ませる。	○デモンストレーションを示すことで内容を把握させる。  ○複数形の指導は、児童の理解に応じて行う。  ○ルール説明は簡単に行う。
4 いろいろな野菜を確認しよう	○いろいろな野菜の絵を見て、教師の後に続けて言う。	○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
5 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照



## 「4 好きなもの」 Step3

1 題材：食べ物言ってみよう

### 2 わらい

○いろいろな食べ物の英語での言い表し方に慣れ親しむ。

hamburger, pizza, spaghetti, curry and rice, sandwich, steak, salad, soup etc.

### 3 資料と準備

- (1) 食べ物の絵カード（大）
- (2) 食べ物の絵カード（フルーツバスケット用）  
（種類×3～4枚程度）

### 4 展開

ポイント：和食の国際化で miso soup や sushi, sashimi のように日本語がそのまま英語になったものが多くあり、ぜひ和食も取り入れてみてはいかがでしょうか。

Q.「ジュース」を英語で言ったら？

A. 英語で juice といえば、果汁100%のものをいいます。果汁分の少ない清涼飲料水は soft drink、炭酸が入っているものは soda(pop)といます。

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 いろいろな食べ物を言ってみよう	○食べ物の絵を見て、教師の後に続けて言う。 hamburger, spaghetti, curry and rice, etc.	○食べ物を表す単語を絵カードを見せながら発音する。	○チャンツで繰り返し発音させる。
3 ゲームをしよう	○「出会ってジャンケンゲーム」を行う。 (GL p. 74参照) ○「フルーツバスケットゲーム」を行う。 (GL p. 74参照)	○ルールを説明して、楽しくゲームをさせる。	○デモンストレーションを示すことで内容を把握させる。 ○ゲームを行いながら、単語の発音や意味を自然と理解させていく。
4 いろいろな食べ物を確認しよう。	○学習した単語をも一度確認していく。	○絵カードに書かれてあるものを発表させる。	○全体で確認した後、個別に指名し、発表させるようにする。 ○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
5 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照

## 「4 好きなもの」 Try This Now

1 題材：学校へ行こう

### 2 わらい

- (1) 好きかどうかの尋ね方に慣れ親しむ。  
Do you like ~? Yes. / No.
- (2) 教科の単語を使って会話文に生かすことができるようにする。  
Japanese, math, music, science, PE, art etc.



### 3 資料と準備

- (1) Try This Now (スキット編 I 4) (2) ビデオデッキ  
(3) 「教科」の絵カード (4) ゲームで使うカード

### 4 展開

ポイント：Do you ~?とたずねられて、Yes, I do.といった定型の応答文にこだわらず、まずは Yes./No.と意思表示をしっかりとさせることが肝心です。

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 好きかどうかのたずね方に慣れ親しもう	○ビデオを視聴する。(スキット編 I 4)  ○ビデオや教師の英語に合わせて発音する。 A: Do you like music? B: Yes. / No.	○ビデオを視聴させる。  ○全体練習の後、児童が動き回って、いろいろな人と何度も繰り返し会話練習を行えるようにする。	○スキットを視聴した後再度、会話表現について練習させる。 ○教師も一緒に会話を行うようにする。
3 教科を言ってみよう	○教師の後に続けて発音する。 Japanese, math, art, music, science, PE etc. ○「カード集めゲーム」を行う。(GL p. 74参照)	○教科を表す単語を絵カードを見せながら発音する。  ○ルールを説明して、楽しくゲームをさせる。	○チャンツで繰り返し発音させる。  ○デモンストレーションを示すことで内容を把握させる。 ○ゲームを行いながら、単語の発音や意味を自然と理解させていく。
4 発表しよう	○「教科」の中から自分で選択して会話文を完成させる。 A: Do you like ○○? B: Yes. / No.	○自分で選んだ単語を使って、会話文を完成させることを伝える。	○学級や子どもの実態に応じて答え方のレベルを調整する。 ○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
5 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照

## 「5 動物」 Step1

1 題材：動物を言ってみよう

2 わらい

○いろいろな動物の英語での言い方に慣れ親しむ。  
dog, cat, rabbit, mouse, bird, pig, fox,  
bear, elephant etc.

3 資料と準備

- (1) Try This Now (リズム練習編8) (2) ビデオデッキ  
(3) 動物の絵カード (掲示用) (4) ビンゴシート



4 展開

ポイント：児童にとって動物は見慣れていますが、絵やぬいぐるみなど視覚的に訴えるものがあると学習をスムーズに進められます。特に、児童が知らない動物を取り上げると興味・関心が増します。

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 いろいろな動物を言ってみよう	○いろいろな動物の絵を見ながら、教師の後に続けて発音する。 dog, cat, rabbit, mouse, bird, pig, fox etc.	○絵カードを指したりジェスチャーを交えたりしながら何度も発音し、いろいろな動物の言い方に親しませる。	○言語材料は、児童に身近で好きな動物を取り上げる。 (リズム練習編8参照)
3 ゲームをしよう	○「ビンゴゲーム」を行う。 (GL p. 75参照) ○「ジェスチャーあてゲーム」を行う。 (GL p. 75参照)	○ルールを説明し、楽しくゲームをさせる。	○デモンストレーションを示すことで内容を把握させる。
4 いろいろな動物を確認しよう	○いろいろな動物の絵を見たり、ジェスチャーを行ったりしながら教師の後に続けて発音する。	○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
5 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照

## 「5 動物」 Step2

1 題材：数をたずねよう

2 わらい

○数の尋ね方を知り、会話を楽しむことができる。  
How many～?

3 資料と準備

- (1) Try This Now (スキット編 I 5)  
(2) ビデオデッキ (3) 数字カード (4) 動物や昆虫の絵カード  
(5) ゲーム用ビー玉

Q. *that* が5つ続く英文って?

A. He said *that that that that that* girl used was wrong.で、「あの少女が使ったあの hat」という言葉は間違っていると彼は言った」という意味です。

4 展開

ポイント：Do you ~?同様、How many ~?でも、まずは数字だけ答えてもいいようにし、答えようとする積極性を大切にしてください。

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 数を言ってみよう	○数字カードを見ながら、教師の後に続けて発音する。 one, two, three, four, five, six, sevenなど	○フラッシュカードを用いたり指で数字を表したりしながら何度も発音し、数の言い方に親しませる。	○フラッシュカードを用い、繰り返し発音させる。 (「13 買い物に関する表現」Step1 の数カード利用可)
3 数を尋ねてみよう	○How many ~?の言い方や答え方を知り、練習する。 How many legs? How many pens?	○動物の絵カードを利用したり身の回りにあるものを利用したりして、How many ~?の言い方や答え方に親しませる。	○全体での練習後、児童と教師、児童同士の会話などを段階に合わせて行う。 (「5 好きな動物を尋ねる表現」Step1 の絵カード利用可)
4 ゲームをしよう	○「何個とれたかな?ゲーム」を行う。 (GL p. 75参照)	○ルールを説明し、楽しくゲームをさせる。	○デモンストレーションを示すことで内容を把握させる。
5 数の尋ね方を確認しよう	○Try This Nowのスキット編5を視聴し、How many ~?が使われている部分を聞き取る。	○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
6 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照

## 「5 動物」 Step3

1 題材：好きな動物をたずねよう

### 2 わらい

○どんな動物が好きかの尋ね方と答え方の会話表現に慣れ親しむ。

What animal do you like? I like ○○.


### 3 資料と準備

- (1) 動物の絵カード（大）
- (2) 練習用会話文（黒板掲示用）
- (3) 動物の絵カード（小・種類×児童数の半分）

### 4 展開

**コラム**

使用頻度が高い文字は？  
モールス信号の発明者モールスが調べたり、ギネスブックに載ったりしたことがあります。はっきり順位をつけるのは難しいようですが、1位"E"、2位"T"で、最も少ないのは"Z"といった結果があります。

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 動物を言ってみよう	○動物の絵を見て、教師の後に続けて言う。 dog, cat, rabbit, mouse, lion, tiger, bear, elephant, monkey, giraffe etc. (10単語程度)	○動物を表す単語を絵カードを見せながら発音する。	○チャンツで繰り返し発音させる。
3 どんな動物が好きかの尋ね方や答え方を言ってみよう	○教師の後に続いて、言い方を練習する。 What animal do you like? I like ○○.	○どんな動物が好きかを尋ねたり、答えたりする仕方を発音する。	○ペアで会話練習を行うときは、相手の目を見て行うようにさせる。
4 ゲームをしよう 	○「ポイントゲーム」を行う。 (GL p. 75参照) ○「カード集めゲーム」を行う。 (GL p. 75参照)	○ルールを説明して、楽しくゲームをさせる。	○デモンストレーションを示すことで内容を把握させる。 ○子ども同士で楽しく交流を図りながら、ゲームを進めるようにする。
5 発表しよう	○学習した単語の中から自分で選択して会話文を完成させる。	○自分で選んだ単語を使って、会話文を完成させることを伝える。	○子どもの頑張りやよかったところを賞賛する。
6 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照

## 「5 動物」 Try This Now

1 題材：動物園は楽しいな

### 2 わらい

- (1) 「～を見に行こう」の言い方に慣れ親しむ。  
 (2) いろいろな動物の単語を会話文に生かすことができるようにする。



### 3 資料と準備

- (1) Try This Now (スキット編 I 5) (2) ビデオデッキ  
 (3) 動物の絵カード (4) ゲームで使うカード

### 4 展開

ポイント：「フルーツバスケットゲーム」はフルーツの代わりに動物など、児童になじみのある題材を用いることで、ルールを変えることなく楽しくゲームができます。

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 「～を見に行こう」の言い方に慣れ親しもう	○ビデオを視聴する。(スキット編 I 5) ○ビデオや教師の英語に合わせて発音する。 Let's go and see the hippos. Let's go and see the zebras.	○ビデオを視聴させる。 ○ビデオに合わせて、発音の仕方を練習させる。全体練習の後、数名指名して発表させる。	○スキットを視聴した後再度、会話表現について練習するとよい。 ○教師も一緒に会話を行うようにする。
3 動物を言ってみよう	○教師の後に続けて発音する。 dog, cat, rabbit, mouse, lion, tiger, bear, elephant, monkey, panda, giraffe, gorilla, zebra, kangaroo, horse, deer, sheep, fox, pig, cow etc	○動物を表す単語をカードを見せながら発音する。	○チャンツで繰り返し発音させる。 ○単語は、学級や児童の実態に応じて、数や種類を選択する。
4 ゲームをしよう	○「フルーツバスケットゲーム」を行う。(GL p. 75参照) ※フルーツの代わりに動物で行う。	○ルールを説明して、楽しくゲームをさせる。	○デモンストレーションを示すことで内容を把握させる。 ○児童同士で楽しく交流を図りながら、ゲームを進めるようにする。
5 会話を発表しよう	○動物の中から自分で選択して会話文を完成させる。 A: Let's go and see the ○○s. B: OK. A: Do you like ○○s? B: Yes, I do. / No, I don't.	○自分で選んだ単語を使って、会話文を完成させることを伝える。	○学級の実態に応じて答え方のレベルを調整する。 ○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
6 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照



## 「6 色」 Step1

1 題材：色を言ってみよう

2 わらい

○いろいろな色の英語での言い方に慣れ親しむ。  
red, blue, green, yellow, white, black, pink,  
orange, brown, gray etc.



3 資料と準備

- (1) Try This Now (リズム練習編3) (2) 色カード (大は掲示用、小はゲーム用)  
(3) ビデオデッキ

4 展開

ポイント：カード (flash card) は絵などを見せながら音声を聞かせることで、日本語で説明しなくても、音声と概念が結びつきやすくなります。全ての児童にははっきりと見えるようなサイズを選ぶ必要があります。

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 いろいろな色 を言ってみよう	○いろいろな色のカードを見ながら、教師の後に続けて発音する。 red, blue, green, yellow, white, black, pink etc.	○カードを指したり身近にあるものの色を指したりしながら発音し、いろいろな色の言い方に親しませる。	○言語材料は、児童にとって身近な色を取り上げる。 (リズム練習編3利用可)
3 ゲームをしよう	○「フルーツバスケット」を行う。 (GL p. 76参照)	○果物を色に替えたルールを説明し、楽しくゲームをさせる。	○デモンストレーションを示すことで内容を把握させる。 ○子ども同士で楽しく交流を図りながら、ゲームを進めるようにする。
4 いろいろな色 を確認しよう	○いろいろな色のカードを見ながら教師の後に続けて発音する。	○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
5 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照

## 「6 色」 Step2

1 題材：好きな色をたずねよう

### 2 わらい

○何の色が好きか尋ね方を使って、会話を楽しむ。  
What color do you like? I like ~.

### 3 資料と準備

- (1) Try This Now (スキット編 I 6)
- (2) ビデオデッキ
- (3) 色カード (掲示用)
- (4) インタビューゲーム用用紙



### 4 展開

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 いろいろな色の言い方を思い出そう	○色カードを見ながら、教師の後に続けて発音する。	○フラッシュカードを用いながら何度も発音し、色の言い方を確認させる。	○チャンツで繰り返し発音させる。
3 色の尋ね方や答え方を言ってみよう	○ビデオを視聴する。(Try This Now I 6) ○What color do you like? I like~. の言い方を練習する。	○視聴後、会話練習を繰り返し取り組ませる。	○全体での練習後、児童と教師、児童同士の会話などを習熟段階に合わせて行う。
4 ゲームをしよう	○「インタビューゲーム」を行う。(GL p. 76参照)	○ルールを説明し、楽しくゲームをさせる。	○デモンストレーションを示すことで内容を把握させる。 ○子ども同士で楽しく交流を図りながら、ゲームを進めるようにする。
5 色の尋ね方や答え方に慣れよう	○Try This Now I 6を再視聴し、ビデオに合わせて言う。	○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
6 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照

## 「6色」 Step3

1 題材：持ち物をたずねよう

### 2 わらい

○持っているかどうかの尋ね方と答え方の英会話表現に慣れ親しむ。

Do you have~? Yes / No.

(Yes, I do. No, I don't.)

### 3 資料と準備

(1) 色のカード (大)

(2) 練習用会話文 (黒板掲示用)

(3) 色のカード (小・10色×児童数の半分)

### 4 展開

Q. VIBGYORは何を表すでしょうか。

A. 虹の7色の頭文字で、紫から赤まで順につなぎ合わせています。順番に英語でいえますか？  
(答えは次ページ)

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 色の言い方を確認しよう	○色のカードを見て、教師の後に続けて言う。 red, yellow, blue, white, black, brown, green, orange, purple, pinkなど	○色を表す単語を色カードを見せながら発音する。	○チャンツで繰り返し発音させる。
3 ~を持っているかどうかの尋ね方や答え方を言ってみよう	○教師の後に続いて、言い方を練習する。 A: Do you have a red card? B: Yes / No.	○~を持っているかどうかを尋ねたり、答えたりする仕方を発音する。	○2人で会話練習を行うときは、相手の目を見て行うようにさせる。 ○学級や児童の実態に応じてYes, I do. 答で答えさせてよい。
4 ゲームをしよう	○「カード集めゲーム」を行う。 (GL p. 76参照)	○ルールを説明して、楽しくゲームをさせる。	○デモンストレーションを示すことで内容を把握させる。 ○子ども同士で楽しく交流を図りながら、ゲームを進めるようにする。
5 発表しよう	○学習した単語の中から自分で選択して会話文を完成させる。 A: Do you have a ○○? B: Yes / No.	○自分で選んだ単語を使って、会話文を完成させることを伝える。	○身近な物で尋ねさせてもよい。 (ペット、ハンカチなど) ○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
6 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照

## 「6 色」 Try This Now

1 題材：ハウステンボスでのスケッチ

### 2 わらい

○いろいろな色の英語での言い表し方に慣れ親しむ。  
red, yellow, blue, white, black, brown,  
green, orange, purple, pink etc.



### 3 資料と準備

(1) Try This Now (スキット編 I 6) (2) ビデオデッキ  
(3) 「色」のカード (4) ゲームで使う10色の魚のカード(必要分)

### 4 展開

答え：Violet (紫) Indigo (藍) Blue (青) Green (緑) Yellow (黄) Orange (だいたい) Red (赤) です。アメリカやイギリスの物語では、7色から藍 (Indigo) を抜いた6色の虹が出てくるのもあります。

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 色を言ってみよう	○ビデオを視聴する。 (スキット編 I 6) ○ビデオや教師の英語に合わせて発音する。 A: What color do you like? B: I like blue. ○教師の後に続けて発音する。	○ビデオを視聴させる。 ○全体練習の後、数名指名して、発表させる。  ○色を表す単語を色カードを見せながら発音する。	○スキットを視聴した後、会話表現について練習する。 ○教師も一緒に会話を行うようにする。  ○チャンツで繰り返し発音させる。
3 ゲームをしよう	○「フィッシングゲーム」を行う。 (GL p. 76参照)	○ルールを説明し、楽しくゲームをさせる。	○デモンストレーションを示すことで内容を把握させる。 ○子ども同士で楽しく交流を図りながら、ゲームを進めるようにする。
4 発表しよう	○色の中から自分で選択して会話文を完成させる。 A: What color do you like? B: I like ○○. What color do you like? A: I like ○○.	○自分で選んだ単語を使って、会話文を完成させることを伝える。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
6 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照

## 「7 動作」 Step 1

1 題材：体の部分を言ってみよう

### 2 わらい

- (1) 体の部分を表す言葉に慣れ親しむ。  
head, shoulders, knees, toes, eyes, ears,  
mouth, nose etc.
- (2) ゲームを通して、命令の表現に慣れる。  
Stand up. Sit down. Touch ~.

### 3 資料と準備

- (1) Head, Shoulders, Knees and Toesの歌が入ったCD  
(2) Try This Now (リズム練習編9)  
(3) ビデオデッキ

### 4 展開

**コラム**

親指は finger ?  
finger は手の指をさしますが、親指だけは thumb といいます。

<参考>

- ・人差し指： index finger
- ・中指： middle finger
- ・薬指： ring finger
- ・小指： little finger

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 体の部分を言ってみよう	○担任の動作を見ながら、体の部分を表す英語を聞く。  ○担任の後に続いて、発音する。 ○ビデオを視聴してリズム練習をする。(リズム練習編9)  ○Head, Shoulders, Knees and Toesをを歌う。	○頭や肩等の体の部分を指しながら英語を発音し、児童の耳に慣れさせる。 ○児童への発音練習を促す。 ○ビデオを視聴させる。  ○児童と一緒に、体の部分を指しながら歌う。	○体の部分を描いた絵カードを提示してもよい。  ○リズム練習編には、eyebrows や teeth等の言葉も出てくるが、児童の実態に合わせて取り扱うようにする。 ○歌と振りを楽しく繰り返しながら、自然に英語を覚えられるようにする。
3 ゲームをしよう	○「サイモンセズゲーム」をする。(GL p. 77参照)	○体の部分を表す言葉と共に、Stand up. Sit down. Touch. という命令の表現にも親しませる。	○勝敗にこだわりすぎずに、全員が楽しくゲームができるようにする。
4 体の部分を確認しよう	○体の部分を表す言葉を振り返る。	○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
5 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照

## 「7 動作」 Step 2

1 題材：簡単な動作を指示してみよう

### 2 わらい

○動作を表す言葉や、命令の表現に慣れ親しむ。  
go, come, walk, run, jump, turn, dance, stop,  
swim etc.

Q. 「雨がザーザー降っている」を英語で表すと？

A. 英語には便利な擬態語がないので、一般的には、It is raining very hard.と副詞で表現します。

### 3 資料と準備

- (1) 動作を描いた絵カード (2) 児童が2～3人入ることができるリング  
(3) Try This Now (リズム練習編18) (4) ビデオデッキ

### 4 展開

ポイント：動作を表す表現では、実際に英語を声にしながらか体を動かすような工夫をすれば、自然とマスターしていきます。

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 動作を表す言葉を言ってみよう	○教師の動作を見ながら、英語を聞く。 go, come, walk, run, jump etc. ○動作を表す英語を言いながら、動く。	○実際に動いてみせながら、動作を表す英語を発音する。 ○実際に動きながら、英語の発音練習をさせる。	○動作の後に、絵カードを提示してもよい。 ○動作を伴った発音練習をさせることで、活動的で楽しい雰囲気を作るようにする。
3 ゲームをしよう	○「シャークアタックゲーム」をする。(GL p. 77参照)	○ゲームで使用する英語を言い、やり方を説明する。	○リズム練習編には、fly, write等の言葉も出てくるが、児童の実態に合わせて取り扱うようにする。
4 動作を表す言葉に慣れよう	○動作を表す英語を言う。	○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
5 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照



## 「7 動作」 Step 3

1 題材：動作を指示してみよう

### 2 わらい

- 動作を表す言葉や、命令の表現に慣れ親しむ。  
Make a circle. Make 2(3, 4…) lines.  
Make pairs. Raise your hands.  
Put your hands down.



### 3 資料と準備

- 動作を描いている絵カード

### 4 展開

ポイント：カードに文字が添えられていれば自然に文字に触れることに意味がありますが、文字だけを頼りに発音することがないように注意が必要です。

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 動作を表す言葉を言ってみよう	○担任の発音を聞き、英語を知る。 Make a circle. Make pairs. Raise your hands. etc. ○教師の後に続いて発音練習をする。	○絵カードを見せながら英語を発音する。  ○発音練習を促す。	○絵カードを見せることで、動きのイメージをつかませる。 ○実際に動作をしながら、英語に慣れ親しんでもよい。 ○動きを伴った練習をさせる。
3 ゲームをしよう	○「サイモンセズゲーム」をする。 (GL p. 77参照)	○ゲームのやり方を説明する。 ○初めは、Simon says をつけずに、指示通りに動く練習をさせる。	○活動的で楽しい雰囲気の中でゲームができるようにするため、体育館等の広い場所で行う。
4 動作を表す言葉に慣れよう	○動作を表す言葉について復習する。	○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
5 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照

## 「7 動作」 Try This Now

1 題材：平和ウォーク

### 2 わらい

○いろいろな動作を指示する時の英会話表現に親しむ。  
Let's go. Stay here. Look. Touch. Press. Listen. etc.

### 3 資料と準備

- (1) あいさつをしている様子の絵カード（大・掲示用）
- (2) Try This Now（リズム練習編18）（スキット編7）
- (3) ビデオデッキ



### 4 展開

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE（p. 87）参照
2 動作を指示する時の言い方に慣れよう	○ビデオを視聴し、リズム練習をする。 Let's go. Stay here. Look. Touch. (リズム練習編18)	○ビデオを視聴させる。	○リズム練習をした後、ビデオに出てきた動作の様子の絵カードを黒板に掲示し、再度練習するとよい。
3 ゲームをしよう	○「サイモンセズゲーム」を行う。 (GL p. 77参照)	○教師のデモンストレーションの後、指示を出す。 Simon says, "Jump." "Touch your head."	○Simon saysの代わりにPleaseで行うようにしてもよい。  ○ゲームに慣れてきたら教師の代わりに希望者が指示の言葉を言うようにするとよい。
4 スキットを見よう	○スキットを視聴し本時の学習で学んだ動作を指示する表現が生活の中でどう使われているか理解する。 (スキット編7)	○ビデオを視聴させる。	○スキットを視聴した後再度、動作を指示する会話表現について練習するとよい。
5 動作を指示する時の言い方を確認しよう	○いろいろな動作の様子の絵を見て教師の後に続けて言う。	○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
6 あいさつをしよう			○CE（p. 87）参照

## 「8 日課・時刻」 Step 1

1 題材：朝・昼・夜を言ってみよう

2 わらい

○時の言い表し方に親しむ。  
morning, afternoon, evening, night

3 資料と準備

(1) 時間帯を示すカード（朝・昼・夕方・夜）（大） (2) Try This Now（音楽CD2）  
(3) CDプレーヤー

### コラム

evening と night の違い？  
通例、evening は日没から寝る時間までをさし、night は日没から翌日の日の出までをさします。

4 展開

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 朝・昼・夕方・夜を言ってみよう	○曲に併せて歌う。 （音楽CD2） ○朝・昼・夕方・夜の言い方を知る。	○児童と一緒に、CDにあわせて歌う。 ○絵を見せながら発音し朝・昼・夕方・夜の言い表し方に親しませる。	
3 朝・昼・夕方・夜のあいさつを言ってみよう	○朝・昼・夕方・夜のあいさつの言い方を知る。 Good morning, Good afternoon, Good evening, Good night ○教師の後に続いて発音練習をする。	○絵を見せながら発音し、朝・昼・夕方・夜のあいさつの言い表し方に親しませる。 ○アクセント等に注意させる。	○Goodをつけるだけでよいということをおさえる。
4 ゲームをしよう	○「あいさつをしようゲーム」を行う。 （GL p. 78参照）	○絵カードを黒板にはりゲームの方法を説明する。	○絵カードの順番を換え、2～3回繰り返しゲームを行わせ、表現に慣れさせる。
5 朝・昼・夕方・夜の言い方に慣れよう	○絵を見ながら、教師の後に続けて言う。	○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
6 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照

## 「8 日課・時刻」 Step2

1 題材：朝の日課を表現しよう

### 2 わらい

- (1) 朝にする動作の言い表し方に親しむ。  
Brush my teeth. Wash my face. Comb my hair.  
Watch TV. Go to school. Eat breakfast. etc.
- (2) ゲーム等の活動を通して、朝にする動作の表現に親しむ。



### 3 資料と準備

○動作がわかる絵カード（大）

### 4 展開

ポイント：日常生活の表現では、実際、児童が口にしながらかしジェスチャーをさせることが大切です。

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 朝にする動作を言ってみよう	○絵を見ながら、教師が何を言っているか予想する。  ○教師の後に続いて発音練習をする。	○絵カードを見せながら発音し朝にする動作の言い表し方に親しませる。  ○アクセントやイントネーション等に注意させる。	○学級や児童の実態によって表現の数を調整する。
3 ゲームをしよう	○「サイモンセズゲーム」を行う。 (GL p. 78参照)  ○「ジェスチャーゲーム」を行う。 (GL p. 78参照)	○ゲームの説明をし、動作を表す英文を言う。  ○教師のジェスチャーを見て、何をしているか言わせる。	○動作を表す表現に重点をおかせる。
4 朝にする動作の表現に慣れよう	○絵を見ながら、教師の後に続けて言う。	○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
5 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照

## 「8 日課・時刻」 Step3

1 題材：時刻をたずねよう

### 2 わらい

- (1) 時刻の尋ね方と答え方の言い表し方に親しむ。  
What time is it? It's ○○ (o'clock).
- (2) ゲーム等の活動を通して、時刻のたずね方と答え方の言い表し方に親しむ。

### 3 資料と準備

- (1) 数字カード (大)
- (2) 時計の模型 (大)
- (3) 時計カード・チャレンジカード (ゲーム用)
- (4) おおかみの面 (ゲーム用)

### 4 展開

ポイント：時刻では、13～59の数字や時差の扱いは児童の理解の状況等を判断し、慎重に扱ってください。

Q. 「趣味」を英語では？

A. 趣味 = hobby と覚えている人が多いですが、厳密に言うと専門的知識や技術がないとできないのは hobby、音楽鑑賞や読書など余暇に楽しむのは pastime です。

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 時刻の尋ね方と答え方を言ってみよう	○1～12の数字の言い方の練習をする。 ○時計を見て、教師の後に続けて言う。	○数字を見せながら発音し数字の言い方の復習をさせる。 ○What time is it? It's ○○ (o'clock).	○既習事項なので、簡単に扱う。
3 ゲームをしよう	○「いま何時ゲーム」を行う。 (GL p. 78参照) ○「おおかみさんいま何時ゲーム」を行う。 (GL p. 78参照)	○時計カード・チャレンジカードを配り、記入の仕方・ゲームの方法を理解させる。 ○ゲームの説明をし、最初は、教師がおおかみ役をする。	○時計カードには、何時で書くようにさせる。何分までは書かせない。 ○一人の子が何回も鬼にならないように配慮する。
4 時刻のたずね方と答え方に慣れよう	○絵を見ながら、教師の後に続けて言う。	○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
5 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照

## 「8 日課・時刻」 Try This Now

### 1 題材：電話

### 2 わらい

- (1) 電話での会話の言い表し方に親しむ。
- (2) ゲーム等の活動を通して電話での会話の言い表し方に親しむ。

### 3 資料と準備

- (1) 電話の模型 (2) 時計の模型 (大)
- (3) 時計カード (4) ビデオデッキ
- (5) Try This Now (スキット編 I-8)

### コラム

アメリカの電話機のボタン？  
2のボタンにはABCが2と一緒に書いてあります。これは単語をつくって番号を覚えるためのものです。花屋さんなら、1-800-FLOWERといった具合で、1-800-356937とダイヤルします。

### 4 展開

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつ			○CE (p. 87) 参照
2 電話のかけ方をやってみよう	○ビデオを見る。 (スキット編 I-8)  ○教師対児童全員で、電話での会話を練習する。 ○児童対児童で、電話での会話の練習をする。	○児童にビデオ視聴させる。 ○ビデオを見せた後、質問し、内容をつかませる。 ○児童全員に会話練習をさせる。 ○練習の方法を理解させ、できるだけたくさんの人と会話できるようにさせる。	○児童が会話になれてきたら、教師対児童代表で行ってもよい。 ○電話での会話の内容は、時刻の問いかけだけにこだわらず、既習の事項であればできるだけ使用させる。(天気など)
3 ゲームをしよう	○「伝言ゲーム」を行う。 (GL p. 78参照)	○ゲームの方法を説明する。	○児童の実態によって何時何分まで扱ってもよい。
4 電話のかけ方に慣れよう	○絵を見ながら、教師の後に続けて言う。	○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
5 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照





## 「9 年齢・乗り物・出身国」 Step1

1 題材：乗り物を言ってみよう

### 2 わらい

○乗り物に乗ってきたという言い表し方に親しむ。  
By car (bus, taxi, train, boat, airplane).


### 3 資料と準備

- (1) 乗り物の絵カード (大)
- (2) 乗り物の絵カード (小) グループ分のセット
- (3) ストップウォッチ

Q. 綴りの一番長い単語は？

A. 1913文字の酵素の名前と  
言われています。ふつうは化学  
式で表されますが、アミノ酸の  
名前を全部綴ると長い単語にな  
ります。なぜなぞでは、smiles で  
す。そのワケは何でしょう？  
(答えは次ページ)

## 4 展開

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 いろいろな乗り物を言ってみよう	○教師の後に続けて発音練習する。 car, bus, taxi, train, boat, airplane etc.	○乗り物の絵カードを見せながら発音練習させる。	○できるだけ外来語で馴染みがある単語を使う。
3 ゲームをしよう 	○「チーム対抗カルタとり」を行う。 (GL p. 79参照)  ○「お出かけ競争」を行う。 (GL p. 79参照)	○ルールを説明する。 ○はじめに絵を見せずに "It's a ○○." と説明し、その後で絵を見せる。 It's a car.  ○ルールを説明する。 ○児童に乗り物で来たという時に使う言い表し方を教える。	○乗り物の絵カード(大)を用意する。  ○チームごとに終了するまでの時間を計ったり、複数チームを同時に競争させることもできる。
4 いろいろな乗り物の言い方に慣れよう	○学習した英語を、教師の後に続けて言う。	○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
5 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照

## 「9 年齢・乗り物・出身国」 Step2

1 題材：年齢をたずねよう

### 2 わらい

○年齢を尋ねたり答えたりする言い表し方に親しむ。  
How old are you? I'm ~.

### 3 資料と準備

- (1) 子どもの絵と年齢を書いた絵カード (大)
- (2) 子どもの絵と年齢を書いた絵カード (小) 児童数分  
※ひもをつけて首からかけるようにしておくが良い。
- (3) 数のカード (1~12)

### コラム

英語の十代は  
英語では語尾に teen がつく13歳からを10代といいます。また、9歳頃から12歳までを preteen といいます。

## 4 展開

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 年齢の尋ね方や答え方を言ってみよう	○数の発音練習をする。 one, two, ...twelve ○教師の後に続けて発音練習する。 How old are you? I'm ○○.	○学年に応じて必要な数の言い方を練習させる。 ○年齢を尋ねる時と答える時の言い方の発音練習をさせる。	○数のカードを見せながら練習させる。 ○高学年の場合は、実態に応じて、I'm ○ years old. まで教えてもよい。
3 ゲームをしよう	○「キャッチ競争」を行う。 (GL p. 79参照) ○「仲間をさがそうゲーム」を行う。 (GL p. 79参照)	○ルールを説明する。 ○各児童に黒板と同じ絵カード (小) を渡す。 ○ルールを説明する。 ○各児童に絵カード (小) を見えないように渡す。	○黒板に絵カード (大) を貼る。 ○黒板に対話で使う言葉をわかりやすく示す。
4 年齢の尋ね方や答え方に慣れよう	○学習した英語を、教師の後に続けて言う。	○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
5 あさつをしよう			○CE (p. 87) 参照

答え：s と S の間が1マイル (mile) もあるからで、1マイルは約1.6kmです。

## 「9 年齢・乗り物・出身国」 Step 3

1 題材：出身国をたずねよう

### 2 わらい

○英語での出身国の言い表し方に親しむ。  
I'm from Japan. (China/ Korea/ USA/ Canada etc.)

### 3 資料と準備

(1) Try This Now (リズム練習編16) (2) ビデオデッキ (3) 国旗の絵カード(大)  
(4) 世界地図 (5) それぞれの国の生活や文化の様子を表す写真や絵など  
(6) 国旗の絵カード(小) グループ分のセット

### 4 展開

ポイント：国名は略語でもいいですが、ALTの出身国など関わりの深い国を選んでみてはどうでしょうか。

#### コラム

優しい気持ちで  
日本に慣れない外国の人にとって何もかもがわかりません。自分が海外に行った気持ちで、優しく声をかけることが大切です。

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 国の名前や出身国を言ってみよう	○国旗のカードを見て、国名を予想し て言う。 ○ビデオを視聴し、 国名を表す単語の 発音練習をする。 (リズム練習編) China/ Korea/ U. S. / Canada … I'm from ~.	○絵カードを見せなが らどこの国の国旗か 質問する。 ○日本語での国名の言 い表し方を確認した 後、発音練習をさせ る。	○世界地図を貼り、生活 や文化を伝える絵や写 真を見せる。 ○日本語での表し方との 違いに気付かせる。
3 ゲームをしよう 	○「マッチングゲー ム」を行う。 (GL p. 79参照) ○「出身国ゲーム」を 行う。 (GL p. 79参照)	○ルールを説明する。 ○国名をゆっくり言う。  ○ルールを説明する。 ○国旗カードを配る。	○教室の両側にカードを 置く机を用意する。  ○必ず "I'm from ○○." と文の形で言うよう助 言する。
4 国の名前や出身国の言い方に慣れよう	○学習した英語を、教 師の後に続けて言う。	○本時で取り上げた内 容を確認する。	○児童を頑張りやよかつ たところを賞賛する。
5 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照

## 「9 年齢・乗り物・出身地」 Try This Now

1 題材：グラバー園で

### 2 わらい

○出身地を尋ねたり答えたりする言い表し方に親しむ。  
Where are you from?  
I'm from Japan (China/ Korea/ U. S. / Canada etc.)



### 3 資料と準備

- (1) Try This Now (スキット編Ⅱ 9) (2) ビデオデッキ  
(3) 有名人の絵や写真 (4) 国旗の絵カード (大)  
(5) 国旗の絵カード (小) グループ分のセット

### 4 展開

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつしよう			○CE (p. 87) 参照
2 出身国を尋ねたり答えたりしてみよう	○ビデオを視聴する。 (スキット編Ⅱ 9)  ○教師の後に続けて発音練習する。 Where are you from? I'm from~.	○ビデオを視聴させる。 ○どんな国の人が出てきたか質問する。 ○発音練習をさせる。	○世界にはいろいろな言語があることに気づかせる。
3 ゲームをしよう	○「人物当てクイズ」をする (GL p. 79参照) ○「順番記憶ゲーム」をする (GL p. 79参照)	○出身地を説明し、当てさせる。  ○ルールを説明する。 ○各グループごとに国旗の絵カードを配る。 ○記憶した国名を順番に言わせる。	○有名人の絵や写真を数枚黒板に貼っておく。  ○各グループごとに絵カード (小) のセットを用意する。
4 出身国をたずねたり答えたりする言い方に慣れよう	○学習した英語を、教師の後に続けて言う。	○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
5 あいさつしよう			○CE (p. 87) 参照

## 「10 スポーツ」 Step 1

1 題材：スポーツを言ってみよう

### 2 わらい

- スポーツの言い表し方に親しむ。  
Play soccer.  
(baseball, basketball, volleyball,  
tennis, badminton)

### 3 資料と準備

- (1) スポーツの絵カード (大)
- (2) 椅子 (児童数-1)
- (3) ストップウォッチ



### 4 展開

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あそびをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 身近なスポーツを言ってみよう	○教師のジェスチャーを見て、どんなスポーツか予想する。  ○教師の後に続けて発音練習する。 Play soccer.	○それぞれのスポーツのジェスチャーをして、どんなスポーツか予想させる。  ○スポーツをすることを表す文の発音練習をさせる。	○外来語としての発音と英語との発音の違いに気付かせる。
3 ゲームをしよう	○「スポーツバスケット」を行う。 (GL p. 80参照) ○「ジェスチャーゲーム」を行う。 (GL p. 80参照)	○ルールを説明する。 ○椅子に座れなかった児童と一緒に言う。  ○ルールを説明する。 ○チームごとに全員が終わるまでの時間を計る。	○スポーツの絵カードを黒板に貼る。  ○TTで行う場合は、2チーム対抗で2列に並べて行うこともできる。
4 身近なスポーツの言い方に慣れよう	○学習した英語を、教師の後に続けて言う。	○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
5 あそびをしよう			○CE (p. 87) 参照

## 「10 スポーツ」 Step 2

1 題材：スポーツが好きかたずねよう

### 2 わらい

○スポーツの言い表し方やそのスポーツが好きかを尋ねるいい表し方に親しむ。

Do you like swimming (running, skiing, skating)?  
Yes / No.



### 3 資料と準備

(1) スポーツの絵カード (大)

(2) サインをもらうためのワークシート (四つのスポーツの絵を入れておく)

### 4 展開

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あせつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 スポーツを言ってみよう	○教師の後に続けて発音練習する。 swimming, running, skiing, skating	○スポーツの単語の発音練習をさせる。	○絵カード (大) を用意する。
3 ゲームをしよう	○「スポーツ鬼ごっこ」を行う。 (GL p. 80参照)	○ルールを説明する。	○体育館など広い場所で行う方が良い。 ○役を交互に入れ替えたり、逃げる時に、その動作をしたりするなどの条件をつけることもできる。
4 いろいろなスポーツが好きかを尋ねてみよう	○教師の後に続けて発音練習する。 Do you like ~ing? Yes/ No.	○相手に尋ねる言い方を練習させる。	
5 ゲームをしよう	○「インタビューゲーム」を行う。 (GL p. 80参照)	○ルールを説明する。 ○ワークシートを配る。	○質問するとき、動作も一緒に入れても良いと助言する。
6 好きなスポーツの言い方に慣れよう	○学習した英語を、教師の後に続けて言う。	○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
7 あせつをしよう			○CE (p. 87) 参照



## 「10 スポーツ」 Step 3

1 題材：動作をたずねよう

### 2 わらい

○続けてする動作（スポーツ）の言い表し方に親しむ。

What are you doing?

Playing soccer (baseball, basketball, volleyball, tennis, badminton)

### 3 資料と準備

(1) スポーツの絵カード（大）

(2) ストップウォッチ

### 4 展開

Q. wear（動詞）の意味は？

A. He wears a red shirt.は「着ている」ですが、He wears jeans.では「はいている」です。他にも、帽子を「かぶる」や眼鏡を「かける」にも使える便利な英語です。「身につけている状態」をさすと覚えてください。

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あせつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 続けてする動作を言ってみよう	○教師の動作を見て、続けてする動作の言い表し方であることに気づく。 ○教師の後に続けて発音練習する。 What are you doing? Playing soccer.	○語尾に'~ing'をつけることで継続の意味を表すことに気づかせる。 ○発音練習をさせる。	○動作を交えながら、どのような意味なのか予想させる。 ○スポーツの絵カードを黒板に貼る。
3 ゲームをしよう	○「ジェスチャー競争Ⅰ」を行う。 (GL p. 80参照) ○「ジェスチャー競争Ⅱ」を行う。 (GL p. 80参照)	○ルールを説明する。 ○制限時間内に何問できたか競わせる。 ○ルールを説明する。 ○代表の児童にだけ絵カードを見せ、その動作をさせる。	○ストップウォッチを用意する。 ○スポーツの絵カードとストップウォッチを用意する。
4 続けてする動作の言い方に慣れよう	○学習した英語を、教師の後に続けて言う。	○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
5 あせつをしよう			○CE (p. 87) 参照

# 「10 スポーツ」 Try This Now 10

1 題材：散歩で

## 2 わらい

○続けてする動作（スポーツ）の言い表し方に親しむ。

What is he/she doing?

Playing soccer (baseball, basketball, volleyball, tennis, badminton).

## 3 資料と準備

(1) Try This Now (スキット編Ⅱ10)

(2) ビデオデッキ (3) スポーツの絵カード (大)

(4) ついたて

### コラム

スポーツをするの表現は？  
「する」の動詞には次のような種類があります。

○球技には主に play を使う。

play tennis など

○そのまま使う。

ski や skate, jog

○do や practice を使う。

do aerobics practice judo (kendo)

## 4 展開

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あせつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 続けてする動作を言ってみよう	○ビデオを視聴する。 (スキット編Ⅱ10) ○教師の後に続いて発音練習する。 What is he/she ~ing? Playing soccer.	○ビデオを視聴させる。 ○3人称単数を使った進行形の尋ね方を紹介し、発音練習をさせる。	
3 ゲームをしよう	○「ジェスチャー競争Ⅲ」を行う。 (GL p. 80参照) ○「伝言ゲーム」を行う。 (GL p. 80参照)	○ルールを説明する。 ○代表児童の動作を見て、他のメンバーにその動作を英語で伝える。 ○ルールを説明する。 ○列の先頭の児童に、"Playing ~."と伝える。	○動作をしている児童が見えないようについたてを用意する。 ○TTで行う場合は、2列でチーム対抗戦にすることもできる。
4 続けてする動作の言い方に慣れよう	○学習した英語を、教師の後に続けて言う。	○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
5 あせつをしよう			○CE (p. 87) 参照

## 「11 天候・季節・曜日」 Step1

1 題材：暑い？寒い？を言ってみよう

2 わらい

○体感を表す言葉の英語での言い表し方に親しむ。  
hot, cold, warm, cool etc.

3 資料と準備

- (1) 体感を表す絵カード (大)  
(2) 体感を表す絵カード (小) 児童数分

※児童の背中につけられるように、カードの裏に両面テープを貼っておくとよい。

Q. Big Apple はニューヨーク、  
ロンドンは？

A. the Smoke です。由来は不明  
ですが、工場の煙突から立ち上  
る煙がもとだと想像されます。  
では、Windy City はどこでしょ  
うか？  
(答えは次ページ)

4 展開

ポイント：hot (暑い) の対義語は cold (寒い)、warm (暖かい) の対義語は cool (涼しい) です。使い分けが必  
要です。

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あそびをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 感じ方を表す 言い方を言っ てみよう	○教師の後に続けて 言う。 hot, cold, warm, cool  ○それぞれの感じ方 を、ジェスチャー ではどう表すこと ができるかを考える。	○感じ方がわかる絵カ ードを見せながら、 体感を表す言葉の言 い表し方に親しませ る。 ○それぞれの言葉の感 じをジェスチャーで 表すことを知らせる。	○児童のアイデアを取り 入れながら、暑い様子 や寒い様子をジェスチ ャーで表す方法を確認 する。
3 ゲームをしよう	○「仲間集めゲーム」 を行う。 (GL p. 81参照)	○ルールを説明する。	○絵カードをつけ直して 2～3回ゲームを繰り 返し、表現に慣れさせ る。
4 感じ方を表す 言い方に慣れよ う	○体感を表す言葉 を、絵カードや教 師のジェスチャー を見ながら、英語 で言う。	○本時で取り上げた内 容を確認する。	○児童の頑張りやよかつ たところを賞賛する。
5 あそびをしよう			○CE (p. 87) 参照

## 「11 天候・季節・曜日」 Step2

1 題材：季節をたずねよう

2 わらい

○四季や好きな季節についてたずねる時と答える時の英語での言い表し方に親しむ。

spring, summer, fall, winter, season

What season do you like? I like ○○.

3 資料と準備

(1) 四季や四季に関連するものを表した絵カード (大)

(2) 四季や四季に関連するものを表した絵カード (小) 2セット×グループ数

(3) うちわや手袋など児童が日常生活で使うもの

### コラム

選択の which と what の違いは簡単に言うと、which は限られた範囲、what は範囲が限られていません。季節は限られているので which を使います。what の例を一つ。

◇ What color do you like?

(あなたは何色が好きですか。)

4 展開

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あせつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 四季を言ってみよう	○教師の後に続けて言う。 spring, summer, fall, winter, season ○教師に質問に対応する。	○四季を表した絵カードを見せながら発音し、言い方に親しませる。 ○四季に関連する絵カードや実物を見せながら日本語で季節をたずねる。	○児童が日常生活の中で使ったり目にしたりしたことのある季節に関連するものを準備しておくとうい。
3 好きな季節を答えてみよう	○教師の質問に対応する。 Summer. I like ○○.	○好きな季節のたずね方と答え方を知らせる。 What season do you like? I like ○○.	
4 ゲームをしよう	○「メモリーゲーム」を行う。 (GL p. 81参照)	○ルールを説明する。	
5 好きな季節をたずねたり、答えたりしよう	○好きな季節のたずね方と答え方を教師の後に続けて言う。	○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
6 あせつをしよう			○CE (p. 87) 参照

答え：シカゴの別名です。実際に街を歩いてみると、ミシガン湖からの風が強いと感じます。

## 「11 天候・季節・曜日」 Step3

1 題材：曜日をたずねよう

### 2 わらい

- (1) 曜日の表現に親しむ。  
Sunday, Monday～Saturday
- (2) ゲームや歌を通して、曜日の言い方に親しむ。  
What day is today? It's ○○.



### 3 資料と準備

- (1) Try This Now (リズム練習編1 1、音楽CD)
- (2) カレンダー(拡大したもの)や時間割
- (3) 曜日を表したカード(大)
- (4) 曜日を表したカード(小) 児童分  
※ひもを付けて首から下げられるようにしておくとうい。
- (5) ビデオデッキ (6) CDプレーヤー

### 4 展開

ポイント：曜日は歌やリズムに合わせて繰り返し練習するとスムーズに口から出てきます。

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 曜日を言ってみよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ビデオを視聴し、声に出してリズム練習をする。(リズム練習編1 1)</li> <li>○曜日の発音を確認しながら、楽しく歌う。(音楽CD6)</li> <li>○教師の質問に回答する。 It's ○○.</li> <li>○教師の質問に合う曜日を答える。 It's ○○.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○カレンダーを見せながら児童に視聴させる。</li> <li>○子どもと一緒に歌う。</li> <li>○「今日は何曜日？」という質問をする What day is today?</li> <li>○日本語で曜日に関連する質問をする。 - クラブ活動がある日は何曜日? - 5時間目までであるのは何曜日?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○カレンダーや時間割の曜日を示しながら質問する。</li> <li>○児童の負担から、It's を省略してよい。</li> </ul>
3 ゲームをしよう	○「曜日バスケット」を行う。 (GL p. 81参照)	○ルールを説明する。	
4 曜日を尋ねたり、答えたりする言い方に慣れよう	○曜日の言い方を教師の後に続けて言う。	○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
5 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照

# 「11 天候・季節・曜日」 Try This Now

1 題材：雲仙への一泊旅行

## 2 わらい

- (1) 天候を表す表現に親しむ。  
sunny, rainy, windy, cloudy, snowy, fine
- (2) 天候を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。  
How is the weather? It's ○○.

## 3 資料と準備

- (1) Try This Now  
(リズム練習編10、スキット編Ⅱ-11)
- (2) 天候を表す絵カード(大)
- (3) お天気サイコロ (4) ビデオデッキ

### コラム

温度の単位

英米では一般的にカ氏が用いられていますが、イギリスではセ氏も用いられるようになりました。

◇換算の仕方

$$F(\text{カ氏}) = 9/5C(\text{セ氏}) + 32$$

セ氏100度はカ氏212度になります。

## 4 展開

ポイント：天候や天気を表す表現は、stormy(あらしの)や humid(湿気の多い)などがあり授業時の状況似合わせて取り上げてみてはいかがでしょうか。

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あせつをしよう			○CE(p. 87) 参照
2 いろいろな天候を言ってみよう	○ビデオを視聴して練習する。 (リズム練習編10)	○児童にビデオを視聴させる。	○昨日や今日の天候を尋ねることから導入してもよい。
3 天候を尋ねてみよう	○ビデオを視聴し、会話表現の練習をする。 (スキット編11)	○児童にビデオを視聴させる。 How is the weather? It's ○○.	
4 ゲームをしよう	○「サイコロゲーム」を行う。 (GLp. 81参照)	○教師もゲームに参加し、児童と英会話表現をする。	○ゲームをする前にゲームのやり方について日本語で説明した後、教師と児童で交代しながら練習を十分に行う。
3 天候をたずねたり答えたりする言い方に慣れよう	○いろいろな天候と天候を尋ねる表現を確認する。	○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
4 あせつをしよう			○CE(p. 87) 参照



## 「12 ものの様子」 Step1

1 題材：いいところを見つけよう

### 2 わらい

○ほめる言葉の言い表し方に親しむ。  
Good! Nice! Wonderful! Great!

### 3 資料と準備

- (1) 形容詞を表す絵カード（大）
- (2) 風船



### 4 展開

ポイント：ほめる時は、恥ずかしがらずジェスチャーを交え大きな声で言うことが大事です。

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あせつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 ほめる言葉を 言ってみよう	○教師の後に続けて 発音する。 Good! Nice! Wonderful! Great!	○ほめる言葉の発音練 習をさせる。	○表情やしぐさなど感情 が伝わる絵カードを用 意する。
3 ゲームをしよう	○「はしごゲーム」を 行う。 (GL p. 82参照) ○「風船バレーポー ルゲーム」を行う。 (GL p. 82参照)	○ルールを説明する。 ○ほめる言葉を発音する。  ○ルールを説明する。 ○風船を用意し、ゲー ムを進める。	○体育館など広い場所で 行うとよい。
4 ほめる言葉に 慣れよう	○学習した英語を、 教師の後に続けて 言う。	○本時で取り上げた内 容を確認する。	○児童の頑張りやよかつ たところを賞賛する。
5 あせつをしよう			○CE (p. 87) 参照

## 「12 ものの様子」 Step 2

1 題材：くらべてみよう（動物）

### 2 わらい

○様子や状態、感じたことなどの言い表し方に親しむ。

It's big (small, heavy, light, fast, slow).

### 3 資料と準備

(1) 動物の絵カード（大）

(2) 動物の絵カード（小）2セット

(3) 椅子2脚（Yes と No の紙を貼る）

### コラム

#### あべこべ言葉

日本語では「大小」といいますが、英語では逆に small and big といいます。他にもたくさんあり、例をいくつか。

◇白黒－ black and white

◇左右－ right and left

◇東西南北－ north, south, east and west

### 4 展開

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あそびをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 様子や状態、感じたことなどを言ってみよう	○ものの様子を表す英語の意味を推測する。 big, small, heavy, light, fast, slow etc. ○教師の後に続けて発音練習する。	○反対の意味を表す絵カードを提示し、どのような意味を表すのか予想させる。 ○発音練習をさせる。	○動物の絵カード（大）を用意する。
3 ゲームをしよう	○「イエス・ノーゲーム」を行う。 (GL p. 82参照) ○「動物あてっこゲーム」を行う。 (GL p. 82参照)	○ルールを説明する。 ○動物の絵カードを見せ、説明する。 It's ~. ○ルールを説明する。 ○答えを聞いて、どちらが早く言えたか判定する。	○動物の絵カード（大）とYes とNoと書いた紙を貼った椅子を各1脚用意する。 ○絵カードを2セット用意する。
4 様子や状態、感じたことなどの言い方に慣れよう	○学習した英語を、教師の後に続けて言う。	○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
5 あそびをしよう			○CE (p. 87) 参照

## 「12 ものの様子」 Step 3

1 題材：くらべてみよう（物）

2 わらい

○様子や状態、感じたことなどの言い表し方に親しむ。  
It's old (new, hard, soft, long, short).

3 資料と準備

- (1) ものの様子を表す絵カード（大）または具体物
- (2) 消しゴムなどつかみやすい物
- (3) ストップウォッチ



4 展開

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 様子や状態、感じたことなどを言ってみよう	○絵を見て意味を予想する。 old-new, soft-hard, long-short ○教師の後に続いて発音練習する。	○絵を見せながら、どんな意味か予想させる。  ○発音練習をさせる。	○ものの様子を表す絵カードを用意する。 ○ものの様子を表す絵カード（大）を用意する。
3 ゲームをしよう	○「間違い探し競争」を行う。 (GL p. 82参照)  ○「どんな物?ゲーム」を行う。 (GL p. 82参照) It's ~.	○ルールを説明する。 ○絵を提示しながら、正しい説明とそうでない説明とを織り交ぜながら言う。 It's ~.  ○ルールを説明する。 ○チームの代表以外の児童に、絵カードを見せる。	○黒板それぞれにあてはまるような絵または具体物を用意しておく。
4 様子や状態、感じたことなどの言い方に慣れよう	○学習した英語を、教師の後に続けて言う。	○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
5 あさつをしよう			○CE (p. 87) 参照

## 「12 ものの様子」 Try This Now 12

1 題材:おくんち

2 わらい

○様子や状態、感じたことなどの言い表し方に親しむ。

noisy, strong, little, many, pretty

3 資料と準備

(1) Try This Now (スキット編Ⅱ 12)

(2) Try This Now (リズム練習編)

(3) ビデオデッキ

(4) 形容詞を表した絵カード (大)

(5) 形容詞を表した絵カード (小) グループ分のセット

Q. 日本の英語教育の始まりは?

A. 1806年のフェートン号事件をきっかけに、幕府は長崎のオランダ通詞に英語を学ぶよう命令しました。長崎が英語教育の発祥の地といわれています。

4 展開

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あそびをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 様子や状態、感じたことなどを言ってみよう	○ビデオを視聴する。 (スキット編Ⅱ 12)  ○ビデオを見て、発音練習する。 noisy, strong, little, many, pretty etc. (リズム練習編19)	○ビデオを視聴させる。 ○スキットの場面を振り返り、それぞれの場面で出てきた形容詞の意味を予想させる。 ○ビデオを使って、発音練習をさせる。	○伝統的なお祭りの様子に着目させながら、感じたことを表現する方法に関心を高める。
3 ゲームをしよう	○「みんなで見つけようゲーム」を行う。 (GL p. 82参照)  ○「ピクチャー・ゲーム」を行う。 (GL p. 82参照)	○ルールを説明する。 ○各グループに絵カード(小)を配る。 ○形容詞を言う。 ○ルールを説明する。 ○絵カードまたは動作を見せ、形容詞を言わせる。	○黒板にも同じ絵カード(大)を貼っておく。  ○形容詞にふさわしい絵カード(大)を用意する。
4 様子や状態、感じたことなどの言い方に慣れよう	○学習した英語を、教師の後に続けて言う。	○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
5 あそびをしよう			○CE (p. 87) 参照

## 「13 買い物」 Step1

1 題材：食べ物を言ってみよう

### 2 わらい

- (1) お店の品物（食べ物）の表現に親しむ。  
apple, orange, pineapple, banana, peach,  
tomato etc.  
(2) 1～10までの数を数える表現に親しむ。



### 3 資料と準備

- (1) 数（1～10）カード（大・掲示用、ゲーム用）  
(2) 果物絵カード（中・ゲーム用）  
(3) Try This Now（リズム練習編2）（ゲーム編5）  
(4) ビデオデッキ

### 4 展開

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 数を数えてみよう	○リズムに合わせて声に出して練習をする。 (リズム練習編2) apple, orange, etc.	○ビデオを視聴させる。	○リズム練習をした後、数カードを黒板に掲示し、再度練習する。
3 ゲームをしよう	○「ナンバーコールゲーム」を行う。 (ゲーム編5)  ○お店の品物（食べ物）の表現を練習し、「カルタゲーム」をする。 (GL p. 83参照)	○ビデオを視聴させる。  ○果物の絵カードを黒板に貼り、リズムカルに練習させる。  ○教師が食べ物を取る指示を出し、児童に絵カードを取らせる。取った後、英語表現を言わせる。	○首にかける1～10までの数のカードを用意する。学級やグループの人数に合わせて調整してよい。 ○教師と児童が交代で発話したり、グループ毎に言わせたりしても良い。 ○ゲームに慣れてきたら教師の代わりに希望者が指示の言葉を言うようにするとよい。単数、複数は扱うが、無理に発音の矯正などはしないようにする。
4 数え方を確認しよう	○いろいろな食べ物を数える表現について復習する。	○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
5 あさつをしよう			○CE (p. 87) 参照

## 「13 買い物」 Step2

1 題材：お客さんになって買い物をしよう

### 2 わらい

- (1) 買い物をするときの会話表現に親しむ。  
How much is this? It's ~dollar(s).  
~, please.  
(2) 1~20までの数を数える表現に親しむ。

### 3 資料と準備

- (1) 1~20の数カード (大・掲示用)  
(2) 食べ物の絵カード (大・掲示用)  
(3) Try This Now (リズム練習編2) (スキット編Ⅱ 13)  
(4) ビデオデッキ

### 4 展開

Q. ジョン万次郎の英語？

A. 彼は聞いたままカタカナにして日本語に当てはめていました。一番有名なのは、掘ったイモいじるな (What time is it now?) です。では、揚げ豆腐は何でしょう。3単語です。  
(答えは次ページ)

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 1~20までの数を数えてみよう	○ビデオに合わせて声に出してリズム練習をする。(リズム練習編2) How much is this? It's ~dollar(s). ~, please.	○ビデオを視聴させる。	○リズム練習をした後、ビデオに出てきた数の数カードを黒板に掲示し、再度練習するようにするとよい。
3 買い物の会話をしよう	○買い物の会話表現を練習する。	T: May I help you? S: How much is this? T: It's three dollars.	○何回か行う時は、教師の役割を児童にさせてもよい。
4 ゲームをしよう	○「買い物ゲームⅠ」をする。 (GL p. 83参照)	○4、5人ずつのグループを決めておき、グループ毎に買い物をさせる。児童は、How much is this? と言いながら黒板に貼った食べ物をめくる。値段の合計が20ドル以内になるようにさせる。	○買い物をした合計金額がぴったり10ドル、20ドルになった時は、ボーナス10ドルをあげるなどゲームに変化を持たせるとよい。
5 買い物の会話に慣れよう	○ビデオを視聴して学んだ表現がどう使われているか確認する。 (スキット編Ⅱ 13)	○ビデオを視聴させ、本時の会話表現を確認する。	○ビデオを視聴した後買い物時の会話表現について復習するとよい。 ○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
6 あさつをしよう			○CE (p. 87) 参照



# 「13 買い物」 Step3

## 1 題材：お店を開こう

## コラム

## 2 わらい

- (1) 買い物をするときの英会話表現について親しむ。  
May I help you? ~, please. How much is this?  
It's ~dollar(s). Here you are. Thank you.
- (2) 1~100までの数を数える表現に親しむ。

### おつりの渡し方

アメリカでは品物の値段におつりを足して行って、お客さんが支払った金額になるまで続けます。例えば、8ドル70セントの買い物をして10ドル出したら、10セント硬貨を出しながら"Nine"、次に1ドル札を出して"Ten"とおつりを渡します。

## 3 資料と準備

- (1) 数カード (大・掲示用)
- (2) お店で使う食べ物の絵カード、小物等 (小・児童用)
- (3) 1ドル札カード (一人20枚)
- (4) Try This Now (リズム練習編2) (スキット編Ⅱ13)
- (5) ビデオデッキ

## 4 展開

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 1~100までの数を数えてみよう	○ビデオに合わせて声に出してリズム練習をする。 (リズム練習編2) one, two, three, .. ten, twenty, .. ... one hundred	○ビデオを視聴させる。	○リズム練習をした後、ビデオに出てきた数カードを黒板に掲示し、再度練習するようにするとよい。
3 買い物をする時の会話をしよう	○ビデオを視聴し会話表現の練習をする。 (スキット編Ⅱ13)	○ビデオを視聴させる。	○ビデオを視聴した後再度、売り手買い手の会話表現を練習するとよい。
4 ゲームをしよう	○買い物の言い方を練習し、役割を決めて「買い物ゲームⅡ」をする。 (GL p. 83参照)	○ルールについて説明した後、教師と児童で売り手・買い手を交代しながら練習を十分に行わせる。	○グループ毎に前半と後半で時間を決めて売り手と買い手に分かれ、それぞれが役割に応じた会話表現ができるようにする。
5 買い物をする時の会話表現に慣れよう	○買い物をする時の会話表現について復習する。	○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
6 あさつをしよう			○CE (p. 87) 参照

答え：I get off. (私は降ります) です。ジョン万次郎は聞いたままカタカナにして日本語にあてはめていました。

## 「13 買い物」Try This Now

### 1 題材：買い物

### 2 わらい

- (1) いろいろな食べ物の英語での言い表し方に親しむ。  
apple, orange, pineapple, banana, peach,  
tomato etc.
- (2) 買い物をする時の英会話表現について親しむ。  
How much is this? It's ~ dollar(s).



### 3 資料と準備

- (1) 食べ物の絵カード（大・掲示用）  
 (2) 食べ物の絵カード（小・児童用）  
 (3) 1ドル札カード（一人20枚）  
 (4) Try This Now（リズム練習編5）（スキット編Ⅱ13）（ゲーム編10）  
 (5) ビデオデッキ

### 4 展開

ポイント：子どもたちにとって金額を英語で表現するのは負担に感じます。その際、ドルで行くと身近な買い物なら二桁ですみ、子どもたちの負担軽減になります。

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 いろいろな食べ物を言ってみよう	○ビデオに合わせて声に出してリズム練習をする。 (リズム練習編5) apple, orange, banana etc.	○ビデオを視聴させる。	○リズム練習をした後、ビデオに出てきた食べ物の絵カードを黒板に掲示し、再度練習するようにするとよい。
3 買い物をする時の会話をしよう	○スキットを視聴し会話表現の練習をする。 (スキット編Ⅱ13)  ○「買い物ゲーム」をする。 (GL p. 83参照)	○ビデオを視聴させる。  ○ルールで説明した後、教師と児童で職業を交代しながら練習を十分に行わせる。	○スキットを視聴した後再度、会話表現について練習するとよい。  ○ビデオを視聴させてもよい。 (ゲーム編10)
4 買い物をする時の会話に慣れよう	○買い物をする時の会話表現について復習する。	○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
5 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照

## 「14 職業」 Step1

### 1 題材：職業を言ってみよう

### コラム

### 2 わらい

○いろいろな職業の英語での言い表し方に親しむ。  
teacher, doctor, nurse, cook, pilot,  
fire fighter, baseball player etc.

#### 英語の早口言葉

英語の早口言葉を一つ。Ted threw Fred three throws. (テッドがフレッドにフリー・スローを三回投げた。日本語の発音にない、上下の歯の間に舌を挟む [th] の発音練習になります。)

### 3 資料と準備

- (1) いろいろな職業に就いている人物の絵カード (大・掲示用)
- (2) いろいろな職業に就いている人物の絵カード (小・カルタゲーム用)
- (3) いろいろな職業に就いている人物の絵のペンダントカード (職業バスケット用)

### 4 展開

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あせつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 いろいろな職業を言ってみよう	○いろいろな職業の絵を見て、教師の後に続けて言う。 teacher, doctor, nurse, cook etc.	○絵カードを見せながら発音し、いろいろな職業の言い表し方に親しませる。	○児童にとって身近な職業や興味のある職業を取り上げる。
3 ゲームをしよう	○「カルタゲーム」を行う。 (GL p. 84参照)  ○「職業バスケット」を行う。 (GL p. 84参照)	○4、5人ずつのグループを決めておき、1回ごとに、Hands on your head. と指示をして行う。  ○誰がどの職業かわかるように、職業の絵が描かれた児童用のペンダントカードを用意しておく。	○2回行う場合は、1回目でグループ1位になった児童で別グループを作ると多くの児童がカルタを取ることができる。 ○一人の子が何回も鬼にならないように配慮する。
4 いろいろな職業の言い方に慣れよう	○いろいろな職業の絵を見て、教師の後に続けて言う。	○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
5 あせつをしよう			○CE (p. 87) 参照

## 「14 職業」 Step2

1 題材：なりたい職業をたずねよう

### 2 わらい

○将来就きたい職業についてたずねる時と答える時の英語での言い表し方に親しむ。

What do you want to be? I want to be a ~.



### 3 資料と準備

- (1) いろいろな職業に就いている人物の絵カード（掲示・メモリーゲーム用）
- (2) 色カード（メモリーゲーム用）
- (3) Try This Now（スキット編Ⅱ14）
- (4) ビデオデッキ

### 4 展開

ポイント：子どもたちがなりたい職業は多種多様で、突然たずねられて答えられないケースが考えられます。そのためにも事前にアンケートなどでチェックする必要があります。

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あせつをしよう			○CE（p. 87）参照
2 いろいろな職業を復習しよう	○いろいろな職業の絵を見て、教師の後に続けて言う。 teacher, doctor, nurse, cook etc.	○絵カードを見せながら発音し、いろいろな職業の言い表し方を確認させる。	○Step1で学習した職業と同じものを取り上げるようにする。
3 なりたい職業をたずねる時と答える時の言い方を言ってみよう	○ビデオを視聴し、 What do you want to be? I want to be a ~. の言い方を練習する。 （スキット編Ⅱ14）	○ビデオを視聴させた後、教師と児童で役割や職業を交代しながら練習をする。	○児童の習熟段階によっては、全体での練習後、希望する児童と教師で会話を行ってみせることもよい。
4 ゲームをしよう	○「メモリーゲーム」を行う。 （GL p. 84参照）	○教師がグループに What do you want to be? と順番に質問し、そのグループの児童は一緒にI want to be a ~. と答える。	○慣れてきたら、教師ではなく次のグループの児童がWhat do you want to be?と質問するようにするのもよい。
5 なりたい職業をたずねる時と答える時の言い方に慣れよう	○なりたい職業をたずねる時と答える時の言い方を英語で言う。	○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
6 あせつをしよう			○CE（p. 87）参照

## 「14 職業」 Step3

1 題材：自分がなりたい職業を発表しよう

Q. カタカナ語の「アドバイス」を英語では？

2 わらい

○友達に将来就きたい職業について英語で質問したり、自分が就きたい職業について発表したりする。  
What do you want to be? I want to be a ~.

A. 英語の advice は医者や教師の患者への指示など、かなり強い言葉なので、suggestion が適当です。

3 資料と準備

- (1) いろいろな職業に就いている人物の絵カード（大・掲示用）
- (2) 児童が紹介したい職業の絵や写真
- (3) Try This Now（スキット編Ⅱ 14）
- (4) ビデオデッキ

4 展開

ポイント：なりたい職業を決めていない、決められない子どもには例を示すなどの配慮も忘れずにしてください。

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 なりたい職業をたずねる時と答える時の言い方を復習しよう。	○ビデオを視聴し、 What do you want to be? I want to be a ~. の言い方を復習する。 (スキット編Ⅱ 14)	○ビデオを視聴させた後、教師と児童で役割や職業を交代しながら練習をする。	○ Step1 と Step2 で学習した職業を取り上げて練習する。
3 将来なりたい職業について発表しよう。	○児童一人ひとりがそれぞれのなりたい職業を英語で発表する。 その際他の児童は What do you want to be? と質問する。	○事前に、なりたい職業の言い方を調べたり、写真などを用意したりする。 ○最後に教師が何人かの児童のなりたい職業を英語で言い、それが誰かというクイズを出すようにすると、より集中して聞くことができる。	○それぞれの児童の夢を認め合う温かい雰囲気作りに努める。 ○児童の習熟段階によっては、I want to be a ~. に付け加えて、I like ~. や I'm interested in ~. 等の表現も取り入れるようにすることも考えられる。
4 なりたい職業をたずねる時と答える時の言い方を確認しよう	○なりたい職業をたずねる時と答える時の言い方を英語で言う。	○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
5 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照

## 「14 職業」 Try This Now

1 題材：テレビを見ながら

### 2 わらい

- (1) いろいろな職業の英語での言い表し方に親しむ。  
teacher, doctor, nurse, cook, pilot,  
fire fighter, baseball player etc.
- (2) 将来就きたい職業についてたずねる時と答える時の英語での言い表し方に親しむ。  
What do you want to be? I want to be a ~.



### 3 資料と準備

- (1) いろいろな職業に就いている人物の絵カード（掲示用）  
 (2) いろいろな職業に就いている人物の絵カード（カード集めゲーム用）  
 (3) Try This Now（リズム練習編17）（スキット編Ⅱ14）  
 (4) ビデオデッキ

### 4 展開

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あせつをしよう			○CE（p. 87）参照
2 いろいろな職業を言ってみよう	○ビデオを視聴し、声に出してリズム練習をする（リズム練習編17） teacher, doctor, nurse, cook etc.	○ビデオを児童に視聴させる。	○リズム練習をした後、ビデオに出てきた職業の絵カードを黒板に掲示し、再度練習するようにするとよい。
3 なりたい職業についての会話をしよう	○ビデオを視聴し、会話表現の練習をする。 What do you want to be? I want to be a ~. （スキット編Ⅱ14）	○ビデオを児童に視聴させる。	○スキットを視聴した後再度、会話表現について練習するとよい。
4 ゲームをしよう	○「カード集めゲーム」をする。 （GL p. 84参照）	○ルールを説明した後、教師と児童で職業を交代しながら練習を十分に行う。	○教師もゲームに参加し、児童と英会話表現を行う。
5 なりたい職業をたずねる時と答える時の言い方を確認しよう	○なりたい職業をたずねる時と答える時の言い方を英語で言う。	○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
6 あせつをしよう			○CE（p. 87）参照



## 「15 場所」 Step 1

1 題材：施設や場所を言ってみよう

2 わらい

○on, under, inという場所を表す英語に慣れ親しむ。

3 資料と準備

- (1) 机や椅子、本等の実物
- (2) Try This Now (リズム練習編22)
- (3) ビデオデッキ

Q. 「旅行」を英語では？

A. 英語を母語にしている人が一番使うのは trip です。他には、journey, travel, tour などがありそれぞれ内容が異なります。では、outing はどんな旅行でしょうか。  
(答えは次ページ)

4 展開

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 on, under, in という場所を表す英語を言ってみよう	○on, under, inを使った英語を聞く。	○机や椅子等を用いて on, under, inを使った英語を言う。 例えば、次のような英語である。 on the desk under the chair in the box	○本やバッグ等を実際に机や椅子の上下に置いたり、箱の中に入れたりする。 ○絵カードを使ってもよい。
3 リズム練習をしよう	○ビデオに合わせてリズム練習をする。 (リズム練習編22)	○ビデオを視聴させる。	○児童の実態に合わせてビデオを視聴した後、再度練習させる。
4 ゲームをしよう	○「どこにあるの？ゲーム」をする。 (GL p. 85参照)	○ルールを説明する。	○机や椅子、箱等、実物を使ったり、絵カードを使ったりした方がイメージをつかませやすい。
5 場所を表す英語に慣れよう	○on, under, inという場所を表す英語を言う。	○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
6 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照

## 「15 場所」 Step 2

1 題材：長崎の教会群や名所を訪ねよう

2 わらい

○世界遺産候補になった教会群とキリスト教関連遺産（大浦天主堂、堂崎天主堂、田平天主堂、原城跡等）の中から、児童や地域の実態に合わせて選びWhat is this?とWhere is this? を使った会話表現に慣れる。

※「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」は平成19年1月に世界遺産の「暫定リスト」に選ばれました。



3 資料と準備

- (1) 世界遺産の写真や絵カード
- (2) ライオンゲームに使用するカード

4 展開

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あせつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 WhatとWhereを用いた文を言ってみよう	○リズム練習をする。	○Whatは何を、Whereはどこを表すことを示す。 ○チャンツを使った発音練習をさせる。 T:What is this? T:It's a Church. T:Where is this? T:It's in Nagasaki.	○写真や絵カードを見せながら、自然な英語で、リズムカルに表現できるようにする。 ○世界的遺産の施設や場所の表現として、castleやschool、五島や平戸などが扱える。 ○長崎県の名所(島原城、猿岩、万関橋など)に置きかえることもできる。
3 WhatとWhereを使ってみよう	○「ライオンゲーム」をする。 (GL p. 85参照)	○ルールを説明する。	○グループで協力して英語を言うことができるようにする。
3 WhatとWhereを使った会話をやってみよう	○二人組になって会話の練習をし、発表する。	○次のような会話を繰り返させる。 S1:What is this? S2:It's a Church. S1:Where is this? S2:It's in Nagasaki.	○一方は、繰り返し質問を、もう一方は、施設や場所の言葉を言うことで会話表現に慣れさせる。 ○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
5 あせつをしよう			○CE (p. 87) 参照

答え：家族や学校などの集団での短い期間の旅行、遠出をさします。ちなみに、a school outingなら学校の遠足になります。

## 「15 場所」 Step3

1 題材：道案内をしよう

### 2 わらい

- (1) 目印になる施設の英語での言い表し方に親しむ。  
police station, bus stop, hospital, restaurant, school, park etc.
- (2) 場所を尋ねる時の英会話表現について親しむ。  
Where is ~ ?
- (3) 道案内のための指示の仕方について理解する。  
Go straight. Go back. Go left. Go right. Stop.



### 3 資料と準備

- (1) 目印になる施設の写真カード（大・掲示用）
- (2) 目印になる施設の写真が入った絵地図（道案内ゲーム用・児童数）
- (3) 子どもの絵（進む方向の説明時に使用）

### 4 展開

ポイント：ブロックで仕切られた街の道案内は現実的ではありませんが、道案内になれることを第一に考え、架空の地図で行います。

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 施設を言ってみよう	○教師の発音を聞いて言うようにする。 police station, bus stop etc.	○目印になる施設の写真カードを黒板に掲示し、練習させる。	○リズムや順番を変えてするなど変化を持たせながら言い方に慣れさせる。
3 場所の尋ね方答え方の表現を知り、道案内ゲームをしよう	○場所の尋ね方と答え方の言い方を理解し、練習する。 Where is ~ ? Go straight. Go back.	○Where is ~ ? Go straight. Go back. Go left. Go right. Stop. の意味について説明し練習させる。	○黒板に絵地図を掲示し、指示に合わせて目印の方向に子どもの絵を動かすようにするとわかりやすい。
4 ゲームをしよう	○「道案内ゲーム」を行う。 (GL p. 85参照)	○児童二人ペアで地図を渡し、 Where is the police station? Go straight. Go left. Go right. Stop. 等の表現を使ってゲームを楽しむ。	○児童の習熟段階によっては、グループで話し合いながら説明させてもよい。
5 場所の尋ね方と答え方の表現に慣れよう	○本時の表現について復習する。	○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったことを賞賛する。
6 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照

## 「15 場所」 Try This Now

1 題材：写真と地図を見ながら

### 2 わらい

- (1) いろいろな場所の英語での言い表し方に親しむ。  
police station, bus stop, hospital,  
restaurant, ~ elementary school etc.
- (2) 場所をたずねる時の英会話表現について親しむ。  
Where is it?
- (3) 上下左右の英語での指示の仕方について理解する。  
Go up. Go down. Go left. Go right.



### 3 資料と準備

- (1) 地域の施設や史跡の写真カード（大・掲示用）
- (2) 地域の施設や史跡の写真がマス目に入ったプリント（観光ゲーム用・児童数）
- (3) 動物の絵カード（上下左右の説明時に使用）
- (4) Try This Now（スキット編Ⅱ 15）（ゲーム編 11）
- (5) ビデオデッキ

### 4 展開

ポイント：上下左右の表現に慣れさせるには、体を動かすことが大切で、Go right.の指示にしたがって右にピョンと跳ばせてはいかがでしょうか。くれぐれも児童同士がぶつからないように。

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 地域の施設や史跡の言い方を復習しよう	○教師の発音を聞いて言うようにする。 police station, bus stop, hospital etc.	○地域の施設や史跡の写真カードを黒板に掲示し、練習させる。	○より定着度を高めたい場合はカルタゲームを行うとよい。
3 上下左右の英語で言ってみよう	○教師の説明を聞き上下左右の言い方を理解する。 Go up. Go down. Go left. Go right.	○意味について説明する。	○黒板にマス目を書き、指示に合わせて動物の絵などを動かすようにするとわかりやすい。
4 場所をたずねる時の会話を言ってみよう	○ビデオを視聴し、会話表現の練習をする。 (スキット編Ⅱ 15)	○ビデオを視聴させる。	○ビデオを視聴した後、再度、会話表現について練習するとよい。
5 ゲームをしよう	○「観光ゲーム」を行う。 (ゲーム編 11)	○児童全員にマス目のプリントを渡し、Go up. Go left. 等の指示をし、Stop. Where is it?と児童にその場所の名前をたずねる。	○児童の習熟段階によっては、いくつか列を作り一番後ろの子にだけプリントを渡し、伝言ゲームを行ってもよい。
6 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照

## 「16 感謝の気持ち」 Step1

1 題材：プレゼントする品物を言ってみよう

### 2 わらい

○プレゼントする品物の言い方に親しむ。  
flower, cake, candy, book, doll, origami,  
yukata, . . .

### 3 資料と準備

- (1) プレゼントの品物の絵カード (大・掲示および出会うじゃんけんゲーム用)  
(2) プレゼントの品物の絵カード (小・カルタゲーム用)

### 4 展開

Q. 海外旅行のお土産は？

A. 他人にあげるなら gift、自分のものなら souvenir です。なお、記念品的なものは memento といいます。

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 プレゼントする品を言ってみよう	○いろいろな品物の絵を見て、教師の後に続けて言う。 flower, cake, candy, book etc.	○絵を見せながら発音し、いろいろな品物の言い表し方に親しませる。	○児童にとって身近な品物を取り上げるようにする。
3 ゲームをしよう	○「カルタゲーム」を行う。 (GL p. 86参照)  ○「魔法のおふだーム」をする。 (GL p. 86参照)	○4、5人ずつのグループを決めておき、1回ごとに、 Hands on your heads. と指示をして行わせる。  ○ルールを説明して楽しくゲームをさせる。	○2回行う場合は、1回目でグループ1位になった児童で別グループを作ると多くの児童が  ○自由に動いてじゃんけんを行い、負けた児童はポーズを取って立ち止まり、他の児童からおふだをもらってお礼を言えたら自由に動けるということにする。 ○時間制限で行ったり、おふだの枚数を増減したりして工夫する。
4 プレゼントする物の言い方に慣れよう	○いろいろな品物の絵を見て、教師の後に続けて言う。	○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
5 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照



## 「16 感謝の気持ち」 Step2

### 1 題材：プレゼントをしよう

### コラム

### 2 わらい

○プレゼントを渡したりもらったりする時の言い方に親しむ。

This is my present to you. Here you are.  
Thank you very much. You're welcome.

つまらないものですけど  
英語では、This is something for you. (ほんの気持ちです。)と表します。実際には、つまらないものはありませんが。

### 3 資料と準備

- (1) プレゼントの品物の絵カード（教師のデモンストレーションで使用）
- (2) プレゼントの箱（幸せの鐘ゲームで使用）
- (3) アラーム付きのタイマー
- (4) タイマーを入れる袋

### 4 展開

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 プレゼントを渡したりもらったりした時の言い方を言ってみよう	○教師のジェスチャーを見て、教師の後に続けて言う。 This is my present for you. Here you are. Thank you very much You're welcome.	○ジェスチャーをしながら発音し、プレゼントを渡したりもらったりする時の表現に親しませる。 ○Step1で使用した品物を順番に使いながら練習する。	○何度か練習して慣れてきたら、教師と全児童、教師と児童一人、グループ間などで会話表現を行うとよい。
3 ゲームをしよう	○「幸せの鐘ゲーム」をする。 (GL p. 86参照)	○児童の理解の状況に応じて、グループ間や全員で取り組ませる。 ○プレゼントを渡すときには目と目を合わせて笑顔でできるような雰囲気作りに努める。	○アラームが鳴った時にプレゼントを持っている人が幸せというルールで行う。 ○気持ちを込めて言えたり静かに聞いたりして児童をほめることで活動の意欲を高める。
4 プレゼントを渡したりもらったりした時の言い方に慣れよう	○教師のジェスチャーを見て、会話表現をする。	○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
5 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照



## 「16 感謝の気持ち」 Step3

1 題材：感謝の気持ちを表そう

### 2 わらい

- 実際に相手にプレゼントを渡し、感謝の気持ちを伝える。  
This is origami. It's a present for you. Here you are.  
(Thank you very much.) You're welcome.



### 3 資料と準備

- (1) 折り紙などの手作りプレゼント（児童が作ったもの）
- (2) プレゼントの箱（教師のデモンストレーションで使用）

### 4 展開

ポイント：アメリカでは贈り物をもらうとその場であけるのがふつうです。Thank you.の後に続けて Can I open it? (ありがとう、あけてもいい?) といった表現を扱ってみてはどうでしょうか。

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE (p. 85) 参照
2 プレゼントを渡したりもらったりする時の言い方を復習しよう	○教師のジェスチャーを見て、教師の後に続けて言う。 This is my present to you. Here you are. Thank you very much. You're welcome.	○ジェスチャーをしながら発音し、プレゼントを渡したりもらったりする時の表現に親しませる。	○何度か練習して慣れてきたら、教師と全児童、教師と児童一人、グループ間などで会話表現を行うとよい。
3 ゲームをしよう	○「魔法のおふだゲーム」をする。 (GL p. 86参照)	○ルールを説明して楽しくゲームをさせる。	○自由に動いてじゃんけんを行い、負けた児童はポーズを取って立ち止まり、他の児童からおふだをもらってお礼を言えたら自由に動けるということにする。 ○時間制限で行ったり、おふだの枚数を増減したりして工夫する。
4 お世話になった先生(ALT)にプレゼントを渡そう	○感謝の言葉を英語で言って、手作りのプレゼントを渡す。	○気持ちを込めて言えた児童や、目を合わせて言えた児童をほめる。	○最後に教師(ALT)から感謝の言葉を返してもらうように、打ち合わせをしておくことよい。
5 プレゼントのやり取りの時の言い方を確認しよう		○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
6 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照

## 「16 感謝の気持ち」 Try This Now

### 1 題材：見送り

### 2 わらい

○いろいろなあいさつの表現に親しむ。  
Hello. Good night. Here you are.  
Thank you. etc.

### 3 資料と準備

- (1) あいさつをしている様子の絵カード (大・掲示用)
- (2) あいさつをしている様子の絵カード (小・カルタゲーム用)
- (3) Try This Now (リズム練習編1)  
(スキット編Ⅱ16)
- (4) ビデオデッキ

Q. 英語の早口言葉は？

A. 早口言葉は口の筋肉を英語向きにする訓練ができ、発音練習になります。簡単なものをでは、  
A big black beetle a big black bear. (大きな黒い昆虫が大きな黒い熊にかみついた)  
特に難しいのは、  
She sells seashells on the seashore. (彼女は海辺で貝殻を売ります)

### 4 展開

ポイント：別れ際には Goodbye. や So long.がありますが、Take care! (気をつけて) や Good luck. (がんばってね) のように場面に応じた一言があれば一味違うあいさつになります。

学習過程	児童の活動	教師の活動	留意点
1 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照
2 いろいろなあいさつを言ってみよう	○ビデオに合わせて声に出してリズム練習をする。 (リズム練習編1) Hello. Good night. Here you are. Thank you. etc.	○ビデオを視聴させる。	○リズム練習をした後、ビデオに出てきたあいさつの様子の絵カードを黒板に掲示し、再度練習するようにするとよい。
3 ゲームをしよう	○「カルタゲーム」をする。 (GL p. 86参照)	○4、5人ずつのグループを決めておき、1回ごとに、 Hands on your heads. と指示をして行う。	○2回行う場合は、1回目でグループ1位になった児童で別グループを作ると多くの児童がカルタを取ることが出来る。
4 ビデオを見よう	○ビデオであいさつ表現が生活の中でどう使われているか理解する。 (スキット編Ⅱ16)	○ビデオを視聴させる。	○ビデオを視聴した後再度、あいさつの会話表現について練習するとよい。
5 いろいろなあいさつの言い方に慣れよう	○いろいろなあいさつの様子の絵を見て教師の後に続けて言う。	○本時で取り上げた内容を確認する。	○児童の頑張りやよかったところを賞賛する。
6 あいさつをしよう			○CE (p. 87) 参照